HITACHI
未来へ、つづく。

中体連、日本協会に加盟

財団法人　日本中学校体育連盟の平成５年度からの加盟が、去る２月27日の（財）日本ハンドボール協会の理事会で承認されました。
長年に渉る諸先輩のご指導と中体連の普及活動の結果、同連盟への加盟ハンドボールチームは平成４年度は1788チームとなり、今年度から開催されるＪＯＣジュニアオリンピックカップ・ハンドボール大会を加えて全国大会は夏、春の２回となりました。
同連盟はチームの増加にともない体制の整備も着実に進め、今回の加盟を実現されました。我々も新しい仲間と手を携え、ハンドボール普及のため一層の努力をして行きたいと思います。

(財)日本ハンドボール協会 平成5.6年度役員決定

去る２月27日の評議員会に於いて、新役員が次の通り決定しました。尚、各ブロック、各連盟選出の役員決定をまって、３月13日の理事会に於いて全役員の役職が決定する予定。

役職	氏名	役職	氏名
理　事	斎藤　英四郎	理　事	木野　実
〃	立石　孝雄	〃	小西　博喜
〃	米倉　功	〃	殿水　幸雄
〃	渡邊　佳英		
〃	中澤　重夫	監　事	松本　重雄
〃	植村　繁	〃	大野　金一
〃	山下　泉		
〃	大西　武三		
〃	井　薫		
〃	大塚　文雄		
〃	竹野　奉昭		

中体連ハンドボール部加盟チーム数

	男子	女子	計
北海道	22	9	32
青　森	0	0	0
岩　手	17	16	33
宮　城	9	7	16
秋　田	3	1	4
山　形	9	8	17
福　島	19	14	33
茨　城	33	31	64
栃　木	10	14	24
群　馬	17	10	27
埼　玉	38	17	55
千　葉	28	27	55
東　京	102	56	158
神奈川	75	41	116
山　梨	20	10	30
長　野	8	9	17
新　潟	0	0	0
富　山	29	20	49
石　川	18	13	31
福　井	10	4	14
静　岡	3	5	8
岐　阜	35	31	66
愛　知	152	122	274
三　重	12	20	32
滋　賀	11	5	16
京　都	15	11	26
大　阪	63	35	98
兵　庫	24	20	44
奈　良	15	7	22
和歌山	12	7	19
鳥　取	3	3	6
島　根	2	2	4
岡　山	14	9	23
広　島	11	9	20
山　口	26	22	48
徳　島	0	0	0
香　川	15	12	27
高　知	9	4	13
愛　媛	10	8	18
福　岡	11	21	32
佐　賀	2	2	4
熊　本	23	19	42
長　崎	11	9	20
大　分	6	7	13
宮　崎	10	6	16
鹿児島	6	6	12
沖　縄	32	26	58
合計	男子1023	女子765	計1788

平成４年８月現在

平成5年度(1993年)事業予定表

	全国大会	主要国内大会	国際大会・交流	強化関係(海外遠征・強化合宿)
'93/4			男・Nヨーロッパ遠征Ⅰ 4/13-4/30 ドイツ他	男・NA第1次合宿 4/4-4/10 男・NB第1次合宿 4/4-4/10 女・JN第1次合宿 4/
5	第34回全日本実業団選手権 (男子) 5/14-16 大 阪 (女子) 5/14-16 名古屋			男・NB第2次合宿 5/27-5/31 女・N第1次合宿 5/17-5/26 女・JN第2次合宿 5/
6	第18回日本リーグ(前期) 6/1-7/11 全国各地		女子・JN韓国遠征 6/	女・JN第3次合宿 6/
7	第13回全国クラブ選手権大会 7/23-25 神奈川 第6回全国小学生大会 7/31-8/2 京 都	第44回五大都市体育大会 7/9-11 京 都		男・NA第2次合宿 7/17-7/23 男・NA第3次合宿 7/28-8/2 男・NB第3次合宿 7/17-7/23 男・JN第1次合宿 7/17-7/23 女・N第2次合宿 7/25-7/31 女・JN第4次合宿 7/
8	第22回全国中学校大会 8/19-22 奈 良 第44回全日本高校選手権 8/2-7 栃 木 第20回全国高専選手権 8/9-10 鳥 取 第36回全日本教職員選手権 8/9-13 愛 知	東日本学生選手権 8/17-21 山 梨 西日本学生選手権 8/13-17 福 岡 国体ブロック大会 8/下 各 地	第4回女子アジア選手権 8/20-30 中 国	男・NA第4次合宿 8/10-8/16 男・NB第4次合宿 8/25-8/29 女・N第3次合宿 8/1-8/31 女・JN第5次合宿 8/
9	第18回日本リーグ(後期) 9/29-10/17 全国各地		第7回男子アジア選手権 9/3-15 バーレン 第9回女・JN世界選手権 9/1-20 ブルガリア	男・JN第2次合宿 9/10-9/12
10	第48回国民体育大会 10/24-29 香 川			
11	第36回全日本学生選手権 11/8-14 金 沢 第18回日本リーグ(後期) 11/7-11/21 全国各地 第18回日本リーグプレイオフ 11/26-28 東 京			
12	第45回全日本総合選手権 12/16-19 名古屋			男・NA第5次合宿 12/20-12/26 男・NB第5次合宿 12/20-12/26 男・JN第3次合宿 12/20-12/26
'94/1			女・N韓国遠征 1/	男・NA第6次合宿 1/19-1/28 女・N第4次合宿 1/25-1/31 女・JN第6次合宿 1/
2	第25回全日本実業団 男子トーナメント 2/11-13 神奈川 第2回全日本実業団 女子トーナメント (未定)		男・JN韓国遠征 2/	男・NA第7次合宿 2/10-2/19 男・JN第4次合宿 2/19-2/23
3	平成5年度全国高校選抜 3/24-28 名古屋 第2回JOCジュニアオリンピックカップ 3/26-27 大 阪		男・Nヨーロッパ遠征Ⅱ 3/ フランス他 女・Nヨーロッパ遠征 3/ 男・NB韓国遠征 3/	男・NB第6次合宿 3/19-3/22 女・N第5次合宿 3/4-3/10

日本協会加盟にあたって

㈶日本中学校体育連盟ハンドボール競技部長
真田　元

　前競技部長・中島朋晴先生（埼玉）よりの懸案であった㈶日本中体連ハンドボール競技部の加盟団体としての認定の件が、平成４年度の理事会及び評議会で承認していただきましたことをまずお礼申し上げたいと思います。

　昭和30年、全国中学校体育連盟が設立されて以来34年、多くの諸先輩先生方の努力の積み重ねにより、平成元年には財団法人となり現在にいたっています。

　日本ハンドボール史から、日本中体連（全国中体連）と日本協会との接点をさがすと、昭和47年の全日本中学校（生）大会（現在の全国中学校大会）の実施決定が上げられる。

　第１回大会は昭和47年８月17日～19日に愛知県・青少年公園で男女各10チームの参加で実施され、同時に大会運営の万全を期し、さらに綿密な準備をするために、日本協会はブロック選出中学委員を発表した。

　そのメンバーは、北海道・宮崎光市先生、東北・熊田栄一先生、関東・海保和夫先生、東海・西川勤也先生、北信越・寺崎一夫先生、近畿・山中善之介先生、中国・滝川侃志先生、四国・楠原敏明先生、九州・宍戸幸一先生方で、開催地の調整、参加チーム数、参加人員（現在は選手15名登録・15名出場）等、現在の全国大会の基盤を作っていただきました。

　その後、昭和54年、文部事務次官通達により、中学校の全国大会は学校教育活動としての大会としてのスタートを切りました。また、昭和56年には全国中体連の組織強化の一環として、全国中体連競技部長会が設置され、全国大会対策委員と競技部長合同会議により、次年度の全国大会要項の審議がされるようになった。

　この競技部長会の設置により、全国９ブロック代表委員長を中心としたブロック内組織がより強化され、全国大会（選抜競技大会）開催ブロック持ち廻り方式へと移行して行った。

　以上のように、開催地の輪番制など幾多の変遷を経ながら今日を迎えた陰には、諸先生方のご努力をぬきにしては語ることはできないと思います。

■日本中体連として今後の課題

一、チーム数の増加を目指したい

　昭和45年度、８月に全国中学校指導者講習会が開催されているが、中学ハンドボール界の実情は、愛知、大阪、熊本あたりから、その活動が散発的に伝えられるだけであり、チーム数の把握も都道府県単位であった。

　昭和52年度は、男子７０２チーム、女子４７３チームで、12都道府県で中体連に専門部の設置がされていない状況であったものが、平成４年には男子１０２３チーム、女子７６５チームで２県のみが専門部未設置にまで増加しているが、他競技に比べるとまだまだである。しかも普及度に都県差が見られる。

　そこで、競技普及につとめ、２０００チームを目標とし、47都道府県に専門部の設置を目標として努力して行きたい。それには指導者養成が急務と考えている。

　都道府県（市町村）教育委員会、協会等にあらゆる場面、機会を通じて働きかけて行きたいと考えている。

二、組織のさらなる充実を目指す

　ブロック代表委員長と都道府県専門委員長とのつながり、専門委員長とその都県協会とのつながり、中体連をささえている全国のより堅い結束と協力、さらには日本中体連と日本協会のつながりが密接か否かが大切なポイントになってくる。

　これらの連携をスムースにすることによって、全国大会がより円滑に運営されると考える。

※　　　　※

　中学生のスポーツ振興には多くの課題があり、解決には時間を要することも多い。

　私たちは、日本中体連の基本方針「中学生の体力の増強、競技力の向上を図り、体育・スポーツ活動の振興に努力する。そのために学校教育団体としての主体性を堅持し……」をうけ、教育専門職としての自覚の上に立って関係諸機関と協調し、自信と勇気をもって、高校・大学・社会に繋がるスポーツマンづくりを目指して行きたいと思います。

アジア連盟委員会報告

'95世界選手権はアジアから3チーム予定

強化委員長　井　薫

この度、アジアハンドボール協会（AHF）の競技組織委員会（COC）の会議が、中東のアラブ首長国連邦（UAE）のアルアインで1月31日から2月2日に開催され、出席しましたので報告いたします。

メンバー国はUAE、カタール、サウジアラビアの中東三国と、中国、日本の極東二国の5名ですが、中国が欠席で文字通りアラビア勢に囲まれての会議でした。

競技組織委員会での井強化委員長（左）

昨夏バルセロナのオリンピック時のAHFの会議を経てのCOC会議で、議題の中心はアジア選手権大会、世界選手権のアジア予選等の開催地日程調整ですが、これに来年の広島でのアジア大会、さらにカザフスタン、キルギスタン等の旧ロシアグループのAHF加盟の取り扱いを含め、過密化するスケジュールへの対応が今後の大きなテーマである事を確認しました。

本年開催の第7回男子、第4回女子のアジア選手権大会は、男子が9月3日から15日にバーレンで、女子は8月20日から30日に中国(交渉中）の案が提示されましたが、女子に関しては開催地はともかく、時期は日本国内のスケジュール的には無理であり、男子と同時期開催を申し入れましたが、いずれにしても女子は極東のみの活動（女子の第1回大会のヨルダンでは同国やシリアが参加しましたが、それ以降は不参加）が現状で、開催の存続も検討の段階のようです。

'95年から世界選手権大会に、24ケ国参加となり、アジア大陸の出場枠も3ケ国になる予定。

男子は2枠を極東、中東に分ける事が決定、残りの枠は旧ロシアグループの加盟等が複雑に絡むが、過去の実績からは極東2枠が妥当であり、COC会議に判断を任されるとすると委員構成上、極東は不利であり、今後中国、韓国、日本で理事、委員が一つになって事にあたる大切さを痛感しました。

出発に際し、広島のアジア大会の準備委員会から英文の競技説明書を依託され、幾つかの質問と併せて配布しましたが、理解しやすいと大変喜ばれ、さすがは広島との評価を受けました。

真夏は45度くらいまで気温が上昇するアラビア半島ですが、この時期は20度前後と年間を通して最もしのぎやすく、湿度も低く快適でした。

国際空港のドバイからペルシャ湾に沿って180キロ北上する位置のアルアインは、まさに砂漠の中のオアシスの感じですが、郊外に出て10分程車で走るとそこはもう四方見渡す限りの砂また砂の地平線で、異境に在りの感一入でした。

私たちは中東と広義にとらえますが、実際は石油産出国のリッチな湾岸諸国（GULF）の結束が強く、彼らの仲間意識の中にはヨルダンやシリアといった湾岸国以外は蔑視する風潮も感じられ意外でした。

AHFの組織はこの中東の小さな国も、中国のような広大な国も投票権は一つとする場合、圧倒的多数で中東の優位は動かず、またリッチな国のそれぞれが協会の役職に満足感を抱いており、AHFを極東に移すのは困難と思われる。

但し女子の競技が全く存在しない形は不自然で、男女共々の姿勢がとれない弱さはある。

極東としては、アジア大会、アジア選手権大会は付き合いとして考え、極東で出来るだけまとまって競技力の向上を目指し、世界選手権大会等で実績を残して、アジアの出場枠を少なくとも男子2：1、女子3：0を目指したいものと考える。

滞在中に第12回の湾岸クラブ選手権大会、さらにフランスナショナルを招いてのUAEナショナルとの国際ゲームを観戦、各国のクラブもドイツ、ユーゴ、エジプトあたりのコーチから指導を受け意欲的ですが、レベルは日本リーグの2部くらいと思いました。

レフエリーとスウェーデンから

招き、大会終了後約1ケ月アラブ諸国の、指導にあたるとの事でしたが、日本でも全日本総合の決勝か、日本リーグのファイナルに世界のトッププレフェリーを招き、その後各地で指導を受けるような企画もそろそろあって良いのではないかと思いました。

1日に6回、正しくはモスクでお祈りをするイスラムの地の短い滞在でしたが、アジアは広いを改めて実感する旅でした。

AHF医事委員会に出席して

アジア医事委員　西山　逸成（日本協会スポーツ医科学委員長）

AHF（アジアハンドボール連盟）が構成している5委員会の一つである医事委員会（パキスタン・クエート・シリア・ヨルダン・日本）に2月21・22・23日の期間、ラホール会議（東洋一の美観を誇る英国風のジンナー公園を有する州都）に空路17時間を要し出席した。併しながら3ケ国委員が欠席し、パキスタン（医事委員長・37歳・私有病院長・Dr Mustatab Ahamad）、日本（筆者）、Seeretary General(Mrs. Abul Hassan)とパキスタン国内医事委員(Dr Moosdo)の出席で行われた。

会議内容は、医事委員会が2年間期間で果たすべき事業概要と基本的日程等、AHFに対する提案であった。その概要を報告する。

一、ドーピングは競技成績を抹消し、かつ国名を汚す（発展を阻害）ものである。ドーピングテストの可能な研究所は既に東アジア（日本・韓国・中国）には高い水準で存在している。今後は中央アジアの新しい共和国(GULF)に研究所の設置・推進が望まれる。それは中央アジアの新しい共和国の普及に役立つだろう。

二、医事委員会は、多くの加盟国に対してスポーツ医事・方法・意義に関する情報を収集し普及することが必要である。

三、医事委員会の年間予定は、AHF年間競技日程を各委員会委員長会間の検討結果によって連携・計画することが効率的である。

四、医事委員長は国際ハンドボール連盟（IF）と相互の問題（ドーピング）について協議し合うべきであるということを合議した。

五、医事委員会は、AHFの発展・向上に有益な貢献をするため、少なくとも年間2回の委員会の開催を提言する。

六、医事委員会は、AHFの加盟国が各国所属選手の傷害状況について積極的に情報を交換すべきであると考えている。

七、西山委員は、エイズの危険について、早急な検討の必要性について言及し、ハンドボール選手に対するエイズ・テストを提案した。

この提案は、選手の健康水準を高め、エイズへの危険選手を減少させるために有益である。

八、医師・トレーナー・コーチ・監督・選手達の啓発教育のため、セミナーが、アジア各国の持ち廻りで開催各国のドクター達によって実際的に運営されることが提案された。

九、医事委員会は1992年のアジア選手権大会（広島）の医事報告書内容に賛辞を送りたい。1994年の第12回アジア大会（広島）では、開催国のAHF関係者（医事委員）とAHF医事委員会委員長（大会組織からの招待による）とで競技の医事活動等を行うことの意見があった。

十、医事委員会は、競技会時の傷害状況を憂慮している（1992年アジア選手権医事報告では、大会期間中に治療した傷害発生の30%が大会以前の傷病と報告されている）。今後大会参加の各国チームは、出発以前に各チームの責任においてメディカルチェックを実施し、傷病の治療・予防をはかるべきであることを勧告したい。

以上の提案内容は、選手・スタッフ達が試合・トレーニング現場で反映・実証が継続されるべきであろう。

これらの提案の背景はAHF規定に示されている次の「医事委員会業務」を前提とした。

①IHFのメディカルチェックとの協力による国際的に禁止されているドーピングの薬物チェックとセックス証明書に関すること、②選手権大会中の傷害観察と開催国医事チームとの協力、③傷病予防の最新の対策方法の継続的調査と加盟各国への情報の提供、④AHF各委員会との連携協力、⑤ハンドボール競技によって生ずる傷病に関する医学的研究、⑥ハンドボール競技による傷病の排除（治療・予防）のための最新の方法と意義の研究。

初参加で痛感した点は、中央アジア各国との接触の維持とAHF委員の立場の堅持（JHA・HGAOCの立場でないこと）である。

医事委員会に出席した西山氏（左から2人目）。左はハッサン事務局長

男子ジュニアナショナルチーム韓国遠征報告

将来性豊かな日本代表選手たち

監督　高橋　精一

今回の遠征は、昨年と同様に韓国・中高体連副会長・権純昌先生のお世話により、ソウルに2月19日(金)から23日(火)までの5日間滞在した。

高橋、松井、奥田の3名に団長、日本協会理事・小西博喜先生、平成4年度全国選抜大会優勝校浦和学院高校監督・岩本明先生を含め5名の役員と選手19名計24名で出発した。宿泊はソウル市内のソウリンホテルで、4日間共に定泊。19日到着後、早々にホテル内で権先生を中心にスケジュール調整を行う。

合宿内容は昨年度と異なり、試合を中心に組まれており、我々スタッフは韓国フットワークを主体とした基本練習を数多く体験して今後のハンドボールに役立てもらう計画をしていたのですが、韓国高校界No.1チームと日本選抜のレベルを知る事も必要であると考え了解し、又、我々の目的を権先生に説明して試合終了後、30分間基本練習を指導して頂いた。

試合結果は次の通りである。

▼第1試合
会場、城南体育館　20日11時〜
日本 23 (11−9 / 12−7) 16 泳薫高校(ヨンフン)

▼第2試合
会場、永東高校　20日3時〜
日本 21 (10−6 / 11−9) 15 永東高校(ヨンドン)

▼第3試合
会場、永東高校　21日11時〜
日本 21 (10−8 / 11−10) 18 永東高校

▼第4試合
会場、永東高校　21日3時〜
日本 18 (9−9 / 9−10) 19 泳薫高校

▼第5試合
会場、仁川室内体育館　22日11時〜
日本 20 (7−12 / 13−10) 22 静石航空高校

▼第6試合
会場、仁川室内体育館　22日3時〜
日本 19 (9−8 / 10−5) 13 仁川専門大学

総評は、最初韓国の早い足さばきとパスに戸惑いがあったが、慣れるにつれてフェイント、空間プレー等の攻撃に対応できるようになってきた。しかし、日本は攻防共にプレーできる選手が少なく、その都度交替しなければならない現状で、速攻の展開、交替の判断が悪く失点につながるケースが多く見られた。

今回の遠征メンバーは全員、将来は実業団、大学でハンドボールを学んでいく選手達で、訓練を重ねて技術向上を図っていけば、試合戦績でもわかるように、将来はナショナルチームで活躍してくれる選手が昨年より多いように感じた。

参加選手の紹介と総試合個人得点を列記しておきます。

GK安藤功規(北陸高)、河野剛(鹿児島工高)、元村東弘(桃山学院高)、FP佐々木教裕(拓殖大第一高)29点、戸村正樹(横浜商高)1点、大野順也(桃山学院高)11点、須藤武志(浦和学院高)1点、米満政佳(熊本市商高)3点、佐伯充喜(小松明峰高)4点、猪野貴久(市川高)13点、中野陽治(桃山学院高)4点、森山透(熊本市商高)7点、長谷川貴洋(新居浜工高)4点、保科秀和(下松工高)2点、荒尾 治(北陸高)13点、池辺健二(久留米工高)2点、永野貴裕(土佐高)2点、野村広明(大分電波高)24点、池田寿勝(熊本市商高)2点、以上19名総得点122点、失点103点。

攻撃面は個人得点で活躍度が判断できると思うが、守備面では猪野、池辺、中野、GK元村達がよく頑張ったと思う。

最後に、選手達と生活を共にしたが、ジュニア日本代表選手としての自覚はもとより、高校生としての基本的生活習慣も身につけており、何ら心配のいらない遠征であった。

ジュニア育成に協力頂きました監督の諸先生方にこの誌面をお借りしまして御礼申し上げます。今後共ジュニア育成に御協力宜しくお願い致します。

コーチングスタッフとしての初遠征

浦和学院高校監督　岩本　明

2月18日から23日までの6日間、ジュニアナショナルチームのコーチとして、韓国遠征に参加させていただいた。前年度の選抜大会で、やっと念願であった初優勝を遂げたばかりの未熟な指導力であるにもかかわらず、日本代表チームのコーチという重要な役割りを与えていただいたことに、重い責務を感じると共に、近年めきめきと力をつけてきた韓国チームとの練習や試合で、多くのことを吸収できる期待をもって、19日午前10時、大阪空港を出発した。

役員5名、選手19名の計24名は、11時50分金浦空港に到着した。1時にソウリンホテル着。その後、約1時間、権先生に今回の遠征のスケジュールについてのお話をいただく。

20日〜22日の3日間で、権先生の御指導による練習と、1日2試合、計6試合を行う予定とのことであった。

20日午前、泳薫高校と対戦。立ち上がり泳薫のサイドスカイプレーで先取点を取られたが、GK元村を中心とするディフェンスが固まり、逆に速攻、セットでは、ロング、ミドルが決まり前半を11対9で終了。後半は泳薫のフェイントを守り23対16と勝利を得た。

同日午後、永東高校にて同校と

対戦。前半1―2―3のプレスディフェンスに対する攻めのコンビがとれず、パスミス、キャッチミスが続出した。ハーフタイムに攻撃パターンについての確認をしたが、後半もタイミングがつかめず、コンビがとれない。しかし、永東も日本の高いディフェンスを攻めきれず、21対15と辛勝した。

試合終了後、1―2―3ディフェンスに対する攻撃パターンの練習と、約30分間、権先生よりフットワーク力強化の為のトレーニングの指導を受けた。

21日、永東高校にて午前中は永東高校と対戦。21対18で前日に続いて勝利。午後、対泳薫高校には18対19で惜敗した。

22日は、仁川室内体育館にて、午前中、韓国の高校No.1チームである静石航空高校と対戦した。昨年8月の日韓ジュニア交流で浦和学院高校が対戦した時には、ダブルスコアで敗れたが、今回のジュニアチームはチームとしての練習が出発前の1回（約2時間）のみである上に、3年生中心で、卒業を間近に控え、少々練習不足であるにもかかわらず、後半には各選手が自分の役割りを把握してコンビネーションが良くなり、猛然と追い上げにかかったが、前半の5点差が響き、20対22でタイムアップ。惜しくも勝利を逃した。

同日午後、仁川専門大学と対戦。19対13で勝利をおさめた。

23日、12時30分に韓国を後にし、帰途についた。

この遠征で、4チームと対戦したが、どの選手も脚力があり、ジャンプ力、ステップワーク共に目を見張るものがあった。そして、どのチームも攻撃パターンがほぼ同じであった。このことは、代表チームを組む際、ポジション別に選抜しやすく、コンビネーションがとりやすいという利点となることが考えられる。

また韓国側は、勝ち試合は短時間で終了してしまったり、とても荒いディフエンスであるにもかかわらず、ラフプレーを審判が見逃し、6試合で退場が1回のみという納得のいかない場面はあったものの、勝負に対する執念は強く感じた。

また、日本チームは、勝敗には執着せず、全選手に満遍無く試合経験を積ませたことも有意義であった。

一高校の教員である私に、このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝の意を表したい。また、高校生への指導においては県内・外の予選を突破し、日本一となることを目標とし、目先の勝負にこだわりがちであるが、より広い視野に立ち、「優秀な高校のハンドボール選手を育てることが日本のハンドボールのレベルの向上に直結する」ということを自覚しなければならないと、痛感した。

この場をお借りして、団長の小西先生を始め、高橋監督、松井・奥田両コーチに御指導いただき、心より御礼申し上げます。

韓国遠征を終えて

選手　須藤　武志

四日間、韓国と練習試合や韓国の人にフットワークなどをコーチしてもらい、日本では経験したことがないことを経験したので、とても自分のためになった。試合では、あまり出番がなくて、コートの外からしか声をかけられなかったが、試合を見ているだけでも自分としては楽しかった。たまに試合に出たけど、まるっきり自分のプレーができなかった。プレーがあわなかったというのもあるが、自分の練習不足や弱気になった面もいくつかあった。しかし、正直言って自分はサイドよりも右フローターやセンターをやって、ディフエンスをくずしてみたかった。韓国人は日本人に比べて、フットワークなど、相当きたえられていると思う。泳東高校が毎日やっているフットワークを教えてもらったが、あれだけでへばっている自分達を見て、なさけなく思った。韓国の人達は、あのフットワークを毎日こなしているのだから、いやでも脚力がつくだろうなとつくづく思う。日本でも練習の他にあのようなフットワークを行えば、より一層韓国に近づくのではないかと思う。自分もこれを機会に行うと同時に、浦和学院の後輩達にも教えてあげようと思う。そうすれば、後輩達も勉強になると思う。

この韓国遠征で、初めてサイドディフエンスを経験した。中学、高校とも、今までサイドディフェンスはしたことがなかったが、あれほど楽しいDFのポジションはないと思った。

いろいろ勉強になりました。大学でも頑張ります。

選手　池田　寿勝

韓国のハンドボールで興味があったのは、体型は日本人と同じぐらいなのに、どうしてオリンピックでとてもいい成績を残せるのかということでした。この韓国遠征で思ったのは、小学生からフェイントの動作、ポストのブロックなど、日本では中学生ぐらいがおそわっていることをやっていることと、それを小学生達が一生懸命にやっていることがやはり韓国はすごいなと思いました。高校生も、僕達が練習したフットワークで、とてもフェイントがきれるし、サイドからのシュートをしようとし

ていても味方の位置をわかっている所と、ディフェンスではフットワークで手で押すディフェンスではなく、足でついて体で止めるディフェンスをやってる所がすごいと思いました。

自分は、オフェンスでもあいているのに見てなかったり、前を攻めようともしていなかったし、ディフェンスは奥田コーチが言っていたことも守れずに、フェイントに何本もひっかかって、点を取られたり、ペナルティーを取られたりして、全く言われたプレーができませんでした。

この韓国遠征では、全然自分のプレーの向上はできなかったけれども、韓国のチームのプレー、3年生のプレー、韓国のフットワークなどをいろいろ見れたのでとてもよかったです。

今年は全然なにもできず足を引っぱってばかりでしたが、ここで勉強したこと（特にフットワーク）を練習に加えて、頑張りたいと思います。

選手　猪野　貴久

今回の遠征に参加して韓国ハンドボール界のすごさをおもい知らされたのと同時に、これからの自分のハンドボールに対する取り組み方について数多くのことを考えさせられました。

まず驚いたのは、最終日に試合をした体育館で、韓国の小学生がポストとの2対2を練習していたことです。日本では小学生にハンドボールのことを聞いても大多数が知らないと答えるでしょう。しかし、韓国では同年代の子供が、日本の中・高生でもなかなかできないポストを使うプレーを簡単にこなしているのです。このへんに日本との違いをおおいに感じさせられました。

次に驚いたのはフットワーク練習の練習量の多さです。自分の高校の練習にはフットワークの練習がなかったので、二日目、三日目の練習には正直言って泣きそうになりました。でもフットワークというのは特にディフェンスに必要なものであるということを試合を通じて思いきり感じたので、韓国で教えてもらったフットワークのいくつかを実践し、これからの僕のハンドボールに大いに役立ていきたいと思った。

この遠征で自分に与えられた課題は、まずパワーアップである。どうしても試合中、韓国の選手に力負けしてしまうので、ポストのオフェンス、ディフェンス両方とも後半になってしまうことが多かった。二つ目は精神力・集中力の強化である。一試合を通じていかにボールに集中できるかが、特にポストマンの自分にとっては重要であるし、精神力が弱くては弱気になってしまい、何をするにしても後手後手にまわってしまうからだ。今自分に足りないものは多数あると思うが、特に前に挙げた二つの強化をはかるとともに、大学では五部リーグではあるけれども自分なりに全日本ジュニアに選ばれた一員としての自覚をもち、一生懸命頑張っていきたいと思う。

選手　森山　透

三日間韓国のチームと練習試合をしてみて、韓国の選手は個人個人がしっかりしていると思った。試合は二試合とちょっとしか出なかったけど、反省するべき点や自分にとって自信のついた点などが少しだけどあった。そして今回の遠征では、久しぶりにコートの外から試合を見たけど、これもまた違った面から見ることができたことが良かったと思いました。

韓国のチームはあのフットワークを毎日やっているからだろうと思うけど、瞬発力がとくにすぐれていると思う。最初、試合に出ていてルーズボールを取りに行った時、韓国の人はボールのある位置に一歩か二歩も早くきていると思う。それ以外にも速攻の出だしも速くて、少しでも気をぬけば簡単にやられてしまう。でも二試合ぐらいしかやってはいないけど、韓国というチームに絶対に勝てないとは思わなかった。試合をしていても、そんなに簡単にセットでは点を入れられてはいないと思う。ただイージーミスからの逆速攻や、ちょっとした気のゆるみなどでディフェンスがあまくなった所をやられていると思う。だから、基本的な練習で気をぬかずにやったり、イメージトレーニングなどで精神的に強くなればイージーミスも減っていき、韓国に勝てると思う。

自分は今回の遠征で得たものやフットワークの練習をやって大学へいっても頑張っていきたいと思います。

選手　保科　秀和

今回、全日本Jrチームの一員として遠征に参加していろいろな事を学ぶことができました。韓国のチームとは以前一度、対戦したことがありますがそれで韓国の強さというのはいやというほど分かっていました。韓国にきて対戦した4つのチームも以前対戦したチームより実力は劣っていましたが、コンビプレー、パスワークの正確さ、ボールへの執着心と最初は日本チームより数段上だったように思えました。しかし、何度か試合をこなすにつれてかなりそれら多くのことについて韓国のチームに近づくことができたと思います。

ただ一つ残念だったのが、試合に出てるものと出ていないものが一体になって試合に臨めなかったということです。試合に主力的に出てる者は、誰から見ても声は出てたし、注文もしあってました。けれど、試合に出ていないものは、いざ交代しろといわれてもそれなりの仕事ができていなかったし、声も出していませんでした。

試合を見てる時、自分なりのプレーはイメージしていつでもできると思っていたのに、試合に出てみると味方が違った動きをして、そのプレーをすることができませんでした。そんな時こそ、声を出して注文しないといけなかったのに、自分にはそれができませんでした。だから試合にもあまり出ることができなかったし、いいプレーもできなかったのだと思います。

他に驚いたことといえばやっぱりフットワークの厳しさです。とにかく韓国は、こまかいステップでいろいろな動きに対応できる足腰ができているな、という印象をもちました。

これからまた自分は、社会人になってハンドボールをする訳ですが、もっとこの基本であるフットワークを大事にして、この韓国遠征で味わったくやしさをバネに頑張りたいと思います。

選手　戸村　正樹

韓国へ行く前まで練習していましたが、ボールを使ってシュートやパスなどの練習ではなく走り込みを重点に練習をしていたので、

韓国での試合では、自分の得意なプレーなどが出ず、自分でも納得のいくプレーが全然出なかった。ディフェンスは、横浜商工時代からオフェンス専門でやってなかったのでディフェンスをどうやったらいいのか、全然わからなくて、自分の思った通りにディフェンスをやってみましたが、抜かれてしまって、とうとう、自分の力を出せませんでした。

オフェンスで普段の自分の力を十分に発揮することと、ディフェンスで集中力がなく、守れなかったことが韓国遠征での試合の反省です。

韓国での練習と、韓国チームの感想は、練習はフットワークがとても大事だと言うことと、ステップを速く正確にするように心がけること。試合中のプレーを想定してから練習をすることなど、今までフットワークの練習がおろそかになっていることが一番練習で印象に残りました。フットワークで、もっと自分のボディバランスを良くしたいと思います。

韓国チームを見ての感想は、一人一人、基礎がしっかりしていて、オフェンスでは視野が広くて、ボールをもらう前の動きなど、まだ僕達がまともにできてないプレーをしっかりやっていて、ディフェンスでは常に足を動かして、自分のマークをしっかり見ているのがすごいと思いました。

この韓国遠征では、いろいろ勉強することがいっぱいあったし、反省することもたくさんあったと思います。今度は、この悔やしさをばねに、自分でも先生方にも納得のいくようなプレーができるように頑張りたいと思います。

選手 大野 順也

今回の韓国遠征について、韓国のハンドボールと日本のハンドボールのどこが違うかをこの遠征で学ぶことができました。

まず第一に気が付いたのは、フットワークの量や質の違いに驚きました。韓国チームの試合前のアップなどで見てはいましたが、実際自分自身でやってみると、どれだけのものかがわかりました。

韓国フットワークを少ししただけで、へとへとになりました。こんなきついフットワークを、韓国のチームは、毎日一時間〜二時間はやっていると聴くだけでもぞっとしました。また逆に考えてみると、このフットワークが平気でできるようになれば、韓国の選手に負けないぐらいのプレーができることがわかり、韓国で学んだフットワークを練習に取り入れていきたいと思います。

そして第二に気が付いたことは、小学生がフローターとポストの2対2を練習している様子を見て日本との違いに気付いた。

そして第三に気付いたのは、精神的な面です。

例えば、相手に速攻にいかれて、おいつかないのでおいかけようとしないのではなく、できるかぎりおいかけていけば、リバウンドが取れるかもしれない。そういうふうに、どんな場面にでくわすかわからない。そのためにもどんなこまかいプレーでもそまつにしてはいけないことがわかりました。

また遠征で学んできたことが、大学でいかせるように、自分自身の反省点などを考えこれからがんばっていきたいと思います。

選手 池辺 健二

今回の韓国遠征に参加してみて、多くのことを学ぶことができ、また、体力のなさに気づくこともできました。現役の時でも自分は体力に自信があったし、引退してからも練習してたので、充分ついていけると思っていました。でも、韓国のチームと試合をしていくにつれて、落ちていく自分の体力とは対象的に、韓国の選手はスピード、体力ともに、自分の思ってた以上にすごかったです。

次に韓国チームとのちがいは、ディフェンスです。自分は高校1年生からディフェンスだけで試合に出していただきました。だからディフェンスは、と思っていました。日本ではよいのですけど、やっぱり自分には体力がついていないのです。ディフェンスもだめで、韓国のチームのフェイントについていけず、最後にはやっぱり体力がなくなり、ばててしまいました。

自分はなぜこんなに体力がないんだろうとつくづく思いました。

でも、二日目の終わりに、韓国のコーチからフットワークを教えてもらってからは、自分たちのフットワーク練習は韓国チームの十分の一もやっていないのに気がつきました。韓国チームは世界一のチーム。世界一のチームになろうと思ったら、小学生の時からフットワークの練習をやってないといけません。高校生からはじめる日本と、小学校からはじめる韓国とは、やっぱり9年間の差があらわれると思います。

選手 佐々木 教裕

自分にとって、海外遠征というものは、初めての体験でした。中学校の頃からハンドボールを始め6年目にして、日本以外のチームとやることができてとてもうれしいです。

全日本ジュニアに選ばれることでさえ、自分にとってはとても難しいことだと思っていました。初めて全日本ジュニア選考合宿に行った時は、自分より何人も上手な人がいっぱいいました。自分は、この中で受かるかどうか全然わかりませんでした。自分の出来るかぎりのことをしたと思います。その結果が出て受かりました。

そして、92年の冬に行われた選考合宿では、練習不足のためか、体が全々動かなかったので、実力が全然出ませんでした。そして1月に入り、韓国遠征のために毎日練習をして、体が動くようにするため努力しました。そしていよいよ韓国遠征になりました。初めは全然自分がプレーできないのではないかと思っていました。韓国に来ていきなり試合でスタメンで、少しきん張しました。

韓国はフットワークがとてもいいので、ディフェンスがとてもうまいと思っていました。けれども、思ったよりもディフェンスは強くなかったと思います。試合では練習の成果がでて、体が思いのままに動いて打つシュートは、全部入る気がしました。韓国のキーパーは、思ったよりもへたで、シュートを打ちたくないという気持ちは全然出ないで伸び伸びやれたと思います。韓国はフェイント力はかなりすぐれていると思いますが、けっして負ける気はしませんでした。そして、韓国No.1のチームは、コーチの方々がアドバイスしたとうりに動くと必ずといって良いほど守れたし、点も取れたと思います。

最後に、自分にとって日本以外のチームと試合ができたこと、韓

国のハンドボールに対する熱心さがわかりました。これから自分も韓国人に負けない熱心さをもってがんばっていきたいと思います。

選手　河野　剛

今回、ナショナルジュニアとして、この韓国遠征に参加できたことは、非常にほこりに思いました。多くの候補者の中から選ばれて日の丸のついたユニホームを着てプレーできてよかったです。チームのメンバーとはまだまだコンビが合わないけど、一試合一試合する度に一人一人の個性がわかってきて、自分としては、うまく守れるようになったと思う。

自分は日本の選手になくて韓国の選手にあるものがいっぱいあったと思う。技術は、日本の選手も負けないくらいのものをもっていると思う。やはりフットワークなどいいものを持っていて、フェイント、ディフェンスなど、今までに見たことのないような鋭さ、速さなどがあった。二日ぐらいフットワークを教えてもらったけど、今までやったことのないようなきつい練習だったと思う。しかし、このようなきついフットワークの練習こそ、あの韓国の強さだと思った。

ゲームをやっていて、気付いたことは、ポストの使い方、ポストプレーヤーのパワーなどを感じた。どのチームも、ロングを打てるようなことのできないディフェンスの高さだったけど、そこをフェイント、ポストプレーヤーの位置取りなどのうまさが、分かったと思う。そして相手のミスを鋭くねらう速攻など、日本のチームにないものがあった。

今回の遠征でいろいろあったけど、良かった点はさらに伸ばし、悪かった点は少しずつ直して行こうと思う。

まだまだ、始まったばかりなので、これからの日本を背負っていくようにがんばりたい。

選手　長谷川　貴洋

2月18日から2月23日の強化練習会。18日には大阪の大和銀行体育館で練習しました。大阪で練習していたときは、正直筋力が落ちているのがわかり、やばいなと思った。まったくの練習不足というのがわかったような気がした。

18日も終わり、19日の朝大阪空港から日本を立ち韓国チームのいる所の体育館までバスで行った。韓国チームとすぐ試合して思ったことは、日本人と全然ちがうバネがあると思った。一対一で行ったあとのまわりの動きもすごく、見ていてパスがスムーズにとおっていた。

韓国の先生にフットワーク練習の最後に教えてもらったけど、いつも使ってないような筋肉を使うので思うように動けなく、なさけなかった。

次の日は、他のチームとの試合だった。きのうのチームとはちがって一段とスピードが早かったような気がした。このチームと試合をしているのを見ていて、学校でもっともっとハンドボールを勉強練習して、試合に出たかったなと思いました。

韓国に来ての一番強く心に残ったのは、スピード、ジャンプ力のすごさです。このスピード、ジャンプ力を身につけるには毎日のようにあの韓国の先生に教えてもらったフットワークをして、足腰をきたえないといけないと思った。ボールを使うのは、そのつぎだと思う。基礎が出きてもないのにまだまだはやすぎると自分は反省しています。

選手　安藤　功規

今回の遠征に、僕は、期待と不安を抱きました。期待は、韓国のすごいシュートを取りたいということと、全国から集まったすごい仲間とプレーすることでした。不安は、果たして自分のキーピングが通用するかどうかということだった。

現役から離れて動けるか、試合のカンはにぶってはいないか、ゴールの感覚はあるか、などなど色色の不安があった。特にゴールキーパーは常にゴールに立ってシュートを受けていないとベストの状態にもっていけないのは、よく分かっていた。だからとにかく頑張ろうと思っていた。

初日の試合で、前半の途中から出してもらったが、最後は緊張して、動きが堅かった。後半はだいぶおちついて、よく見たら相手のシュートはたいしたことなかった。しかしポストの粘りとスカイプレーの上手さ、バックパスなどの正確さに驚いた。

二日目は、初日の疲れからか、動きがにぶかった。試合に出ても、自分で納得のいくプレーができなかった。試合後のフットワークは前日のフットワークよりもきつく、あまり動かないキーパーにはとてもつらいものでした。2対2や3対3の追いかけっこで、キーパーとフィールドの誇りをかけてやって見事に敗北して、百回ジャンプしたときには、とてもつらく足が上がらなくなりました。

最終日の試合は、韓国1位のチームとやり、結果的には負けたが、後半の雰囲気はとても良かったと思う。午後の試合に出たが、午前とは比べものにならないほどひどく、高橋先生に怒られるのも当然だと思った。自分としては最悪で、まともにシュートが止めれなく、ずるずると最後までいってしまった。このときは自分の力不足を痛

感し、とても情けなく思いました。
今回の遠征は反省することばかりだったが今後の自分のプレーに生かしたいと思います。

選手 中野 陽治

今回、全日本ジュニアチームの一員として韓国の高校生と試合をしたり、練習をみたりして一番強く感じたことは、韓国のチームの方が日本のチームと比べて数段もハンドボールに取り組む姿勢が違うということでした。小学生の頃から僕達が練習するようなことをコーチが熱心に指導していたのを見て、これが金メダルを取るチームの指導方法だと感心しました。
実際にゲームをやってみて思ったことは、韓国のチームと考えていた以上に互角に戦えたことが意外だったことです。それとディフェンスをやっていて気付いたことは、どのチームもパス回しが速く、ポストのボールをもらってからシュートに移る動作が、とてもすごいと思いました。しかし、一対一のフェイントは、奥田コーチのアドバイスもあって全然恐くなかったです。すると、どんどん積極的な気持ちになってパスカットもいけるようになりました。オフェンスでは、逆サイドをやりましたが、全然シュートが入らなくて、自分でもとてもくやしかったです。
自分達のチームが速攻をする時に、韓国のチームは、とても戻るのが速いといのも僕達のチームと違うところです。それに、韓国の人達は、フットワークをとても重要なものと考えていることです。僕達の高校の練習で、いくら長い時間をかけているチームも30分もやっていないと思います。それに比べて韓国のチームは、最低でも一時間は、フットワークをやっているらしいです。いかに、フットワークが大切なものかということを改めて思いました。これからの僕の課題は、毎試合出してもらったディフェンスをもっと練習して完成品に少しでも近づけるようにし、さらに逆サイドでも自分のプレーやシュートがうてるように、この韓国遠征が、ただの遠征だけで終わるのではなく、自分のこれからのハンドボールに確実に良い影響を与えてくれて、後で絶対に良かったと思えるようにがんばります。

選手 米満 政佳

韓国は、ハンドボールが強い国だとは知っていたのでどんなチームと試合をやるのか楽しみにしていた。
韓国に来て2日目に試合をしたが私が思ってたほどすごくはなかった。しかし、日本に比べると一つの学校だけのチームとしてはとても強いチームだと思った。日本と差があると思ったところは、まず体つきが違うと思った。それは、体がしまっているというかやせてるというか細いと思った。なかにはがっちりした体つきの人もいたが、ただ細いだけではなくしっかりした筋肉がついているところが違うと思った。この筋肉はフットワークでついたものだと思う。
日本チームと韓国のチームでは身長の差があったと思う。この遠征で試合をやった限りでははるかに日本チームの方が高かったと思った。でも韓国のチームは、身長の差はあるがロングシュートを決める力を持っていたと思った。シュートの速さは、日本の高校生と比べてかなり速いと思った。そしてジャンプ力がある。フットワーク力があるので、身長の差はあまり関係ないのだと思った。
日本チームは、動きもあわせないで試合をしたわりにはよくやったと思う動きをあわせればもっともっと強くなると思う。韓国遠征に来ていい勉強になったと思う。

選手 荒尾 祐治

今回、男子ナショナルJrとして、韓国の高校と試合をして、さまざまなことを身をもって感じることができました。それは、日本のチームよりはるかに足腰が強く、フットワークのちがいがでたことでした。
日本では通用したシュートやフェイント、ディフェンスなど、韓国のチームには、ほとんど通用しなかったということでした。
サイドのポジションでゲームに出るのははじめてでした。今まで北陸高校では、この身長でフローターをしていましたが、今日はサイドということで、何をどう動いていいのか、どう守っていいのか全くわからず、チームに迷惑ばかりかけてしまっていた。
韓国のチームと試合をして、これからの目標ができました。それは、まず基本にもどり一から出なおすということです。まず、韓国のチームに少しでも近づけるよう、走り込みをして、足腰をきたえることからです。韓国にきて学んだフットワークなど、毎日かかさずやること。そして、韓国やその他の国のチームに負けないくらいのウエイトトレーニングをすることから始めたいと思います。
四日間、今までちがうチームだった人たちと、こうして一つのチームとなり、日本の代表として韓国のチームと試合をするなんて、夢にも思っていませんでした。
僕なんか選ばれるわけがないと思っていたけど、こうして19名の中に選ばれて、本当にうれしかったです。そして、この四日間の韓国の遠征で、他国のチームとの試合に出られたことがとてもうれしかった。

選手 佐伯 充善

自分は二年前、石川選抜で韓国へ来て、死ぬほどつらい思いをしたことがあります。毎日必ず午前・午後、二時間づつフットワークやダッシュをやらされました。初日の午前中だけで、バテてしまいました。こんなにきつい練習は始めての経験でした。
今回、ジュニアに選考されて、遠征先が韓国と書かれていたので悲しくなった。しかし、やりがいはあった。
韓国のチームは足腰が強く、瞬発力もすごく、日本のジュニア選抜チームと試合をしても、少ししか力は劣らなかった。もし今、韓国が選抜チームを作って日本ジュニア選抜と試合をしたら、絶対負けてしまうと思います。小学生の練習を見ていたら、パスのフォームもきれいだし、フェイントもできるし、日本の中学生ぐらいのテクニックを持っていた。小学生なのに体罰を与えて気合の入った練習を毎日しているからだと思う。日本のハンドボールは、小学生のクラグがほとんどないと思う。もっと盛んにして、韓国を見ならうところはいろいろあると思う。
まず第一に足の配び方。オフェンスにしても、ディフェンスにしてもスムーズに足がでて、すばやいきりかえしやあたりが速かった。

もう一つは、パスの正確さだと思う。スカイプレーも簡単にやっていた。ラテラルパスの手の出し方も最短の位置に運び、スピードのあるボールを回していた。自分たちは誰もくずさず、個人プレーが多く、そしてミスの大半はパスミスだった。三角パスとか日頃から速く正確なパスを心がけるようにするべきだと思います。
　教えられたことを忘れず、練習に取り組みたいと思います。

選手　元村　東弘

　今回の韓国遠征では、3日間すべて試合がほとんどで、練習などが少なく、韓国の練習方法やトレーニング方法を学ぶ機会が少なかったのが少し心残りです。
　韓国の選手と全日本ジュニアの選手を比べてみると、まず瞬発力が違うと感じた。試合中でもルーズボールを取るときなど、ほとんど韓国の選手にとられてしまう。練習時間外でも韓国の選手の方が速い。これは体力的より気持ちの入れ方の違いだと思う。コーチの方々に何度も言われたように、けじめの差だと思う。それは私生活にも試合中でも影響している。
　次に、脚力の差を感じた。速攻が速く、帰陣が間にあわないことがたびたびあった。そして、足さばきもかなり速い。これはフットワークの練習の差で、韓国の選手達は毎日フットワークの練習を1時間、あたりまえのようにやるらしい。が、日本の高校の中でそれほどやっているチームは数えるほどもないだろう。試合をやっていると、フットワークの重要さをよく感じる。
　そして、細かいことを挙げれば、声がでない、ムードづくりが悪い、審判の笛を期待しすぎている、基本的なミスが多いなど、色々あるが、結局は精神的に負けていたと思う。韓国はアジアで最も強いが、その強いというのをはじめからうのみにしてプレッシャーを感じていては、勝てる試合も勝てないだろう。また、日本中から集めたチームで2点差で負けたというのに、2点差だろうが試合内容が良かろうが、負けてしまってはどうしようもない。コーチにも言われたが、公式戦であれば、次はない。試合内容が悪くても勝てば良い。勝ちにどん欲になる、そういう心構えで今後の試合に臨みたい。
　これから、この韓国遠征の経験を生かし、自分の足りない部分を反省し、外国のチーム相手に失点をできるだけ少なくできるように努力し、これからの試合に臨もうと思う。

選手　永野　貴裕

　僕は1月に通知が来てから、渡韓を非常に楽しみにしていました。仲間の素晴らしいプレーが見られるのも大きな楽しみでしたが、なにより自分のシュートが海外を相手に通じるかどうかが、一番の不安であり、楽しみでもありました。
　一日目はオロオロしてばかりで、右も左もわからない状態でした。一番大変だったのは、仲間内で満足にコミュニケーションがとれないことでした。以後、できるだけ名前を呼ぶようにして、もう大丈夫になりました。
　二日目、野村君からの速攻パスで1点取ることができました。この1点は、多分一生涯忘れないと思います。この時は、パスを出してくれた仲間への感謝と点を取ったうれしさで鳥肌が立ちました。
二試合目、泳薫高校の試合で一本、自分なりのいいシュートを打てましたが、バーに当たり、はずしてしまいました。今思うと、なぜもっと慎重に狙わなかったのだろうと思います。やはりその時その瞬間を大事にしなければ、と痛感しました。
　三日目、二試合目に使ってもらえましたが、監督の期待にそぐえず、自分のことが大嫌いになりました。全く同じオーバーフェイントで二回も抜かれてしまい、情けなくてしょうがありませんでした。前半最後の敵シュートは、顔よりももっともっと痛い場所に当たった気分でした。前半、共にゲームした仲間も一緒に叱られ、大変申しわけなく、恥ずかしさで涙が出そうになりました。
　韓国での一番のおどろきは、やはり、フットワークの量でした。小柄な選手でも太ももは太く、しまっていました。トレーニングコーチをしていただきましたが、たどたどしく、大きな差を感じました。
　大学に入ったら一層練習にはげみ、もっともっと素晴らしいシュートを打てるようになりたいと思います。
　最後に、御指導下さった監督、コーチのみなさんと頼もしい仲間たちに感謝します。ありがとうございました。

選手　野村　広明

　僕にとって今回の海外遠征は始めてのものでした。高校の時からハンドボールを始めて3年目で他の国との試合ができとてもうれしかったです。ハンドボール・ジュニアチームの一員にも選ばれると思っていなかったので、喜びも倍増していました。国内では、背が小さくても少しはやっていけましたが、海外チームとの試合では通用しないと思っていました。いざ韓国にきてみると、驚くことが数多くありました。
　まず始めに驚いたことは、フットワーク練習の多さです。僕のチームでは、フットワークの練習は、20分程度しかなく、正直にいってきつかったです。しかし、このフットワークがいかに重要なものか、知らされました。
　もう一つは、小学生のころからハンドボールをやっていたことです。日本の小学生は、ハンドボールのことも知らない人が多いのに、韓国では小学生から2対2や、ナチュラルパスなどの練習をし、日本の中学生でもできないようなことをやっているので、日本とのちがいを大いに知らされました。
　この遠征で感じた課題は、パワーアップからしていかなければならないと思う。正直にいって韓国の高校2年生の人たちに、簡単にぬかれ、とめられる時などがあったからです。
　次は精神力・集中力の強化である。
　またセットではサイド、センターなどをやり、自分は逆45度だったので攻撃などのしかたが全然わかりませんでした。これから体力面、技術面、精神力、集中力などをみがき、今度の世界ジュニア選手権アジア予選に選ばれるように努力し、日本の役にたてるようにがんばっていきたいと思います。
　最後に小西団長、高橋先生、岩本先生、松井コーチ、奥田コーチ、ハンドボール協会の方々、大変貴重な経験、数多くの御指導ありがとうございました。

★第24回全日本実業団★

男子トーナメント大会をふり返って

全日本実業団連盟副理事長
吉澤　力男

第24回を数えた全日本実業団ハンドボール男子トーナメント大会は、主催の日本協会全日本実業団連盟、主管の大阪協会、大阪実業団連盟の多数の大会役員の運営のもとに開催され、全国の予戦を勝ち抜いた32チームが参加し、盛況のうちに無事故で幕をとじることができた。

今回の大会の目立った特徴について述べると、

㈠、大会のベスト8は、ほとんど同じ顔ぶれでシード権を独占して来たが、北陸、中国地区を中心に上位常連チームを脅かす勢力が台頭して来た。

㈡、例年優勝チームはほぼ大会前に予想できたが、本大会ではベスト4のどのチームにも優勝のチャンスがあったし、今後は、どのチームが優勝するか予想がつきにくくなった。

㈢、日本リーグ勢といえども、必ずしもベスト8に残れないぐらい他チームが戦力の増強に励み、強いチームが多くなって来た。

このような特徴での大会であったが、三日間の熱戦の状況について述べると、結果は優勝候補の一角であったトヨタ車体の順当な優勝で終った。トヨタ車体は既に平成5年度日本リーグ一部入りを確定しており、攻守ともに自信に満ちた試合運びで準決勝まで進んだ。然し、準決勝の大同特殊鋼・星崎戦で、終了3分前まで3点リードされ大苦戦をしいられた。又、優勝戦の日本電装戦でも後半2点リードされる場面もあり、大接戦の末、1点差で3回目の優勝の栄に輝いた。

日本電装・梅井のシュート

準優勝の日本電装は、優勝戦進出2回目であったが、今回も大漁を逸した。すっかりベスト4に定着しており、若さあふれる同チームに次回の優勝を目ざし精進してもらいたい。三位の北陸電力は、当大会で一番躍進し、雰囲気を最高に盛り上げた殊勲のチームである。準々決勝で優勝候補筆頭のトヨタ自動車を破った日新製鋼・呉に堂々と競り勝ち、次回は十分優勝を狙えるチームにまで成長した。四位の大同特殊鋼・星崎は、2年連続の優勝戦進出をほぼ手中にしながら、大事な試合を落したくやしさを生かし、初優勝に向けて頑張っていただきたい。

その他、私なりに印象に残ったチームをあげると、まず、日本リーグ勢3チームのシード落ちである。一回戦で敗れたトヨタ自動車、大阪ガス、二回戦敗退の竹芝精巧に日本リーグ中の元気さが感じられなかった。今後の奮起を期待したい。

活躍が目立ったチームとしては、久しぶりに出場し、シード権を得た日新製鋼・呉、大阪ガスを破った伝統のチーム金沢市役所、終盤までトヨタ織機を苦しめた徳山曹達、竹芝精巧に善戦した豊田合成、ベスト8に復帰した優勝経験のある日鐵建材工業があげられる。又、

第24回全国実業団ハンドボール男子トーナメント大会

1回戦	得点		得点	1回戦
トヨタ自動車	23		55	トヨタ車体（愛）
日新製鋼・呉	26		7	富士電機
住友生命	17		15	住友金属
ブラザー工業	16		21	JUKI
大阪ガス	23		24	トヨタ自動織機
金沢市役所	26		23	徳山曹達
出光・千葉	9		19	豊田合成
北陸電力	36		23	竹芝精巧
マツダ	27		18	セントラル自動車
日本耐酸壜	22		34	本多技研・鈴鹿
日鐵建材工業	22		37	神戸製鋼
フクセン	14		14	コスモ石油
新日鐵・名古屋	19		34	新日鐵・大分
常陽銀行	22		14	ミズノ
東ソー・山口	22		10	三和銀行
日本電装	35		50	大同特殊・星崎

2回戦以降（左ブロック）	得点	得点	2回戦以降（右ブロック）
39	9	34	12
20	27	19	16
16	19	35	15
19	46	17	41
29	30	41	28
25	39	26	30
22	24	30	27

決勝　20 － 21

優勝・トヨタ車体(愛)

3位決定戦　北陸電力 28 － 19 大同特殊鋼・星崎

ここ十数年低迷して来た神戸製鋼、新日鐵・大分に復活の兆しが見られた。いずれにしても、第25回神奈川大会では、どのチームが優秀な成績をおさめるかわからないぐらい、参加チームが成長の跡を示した大会といえる。

当大会の楽しみとして、参加チームの監督、主将および大会関係者が、一堂に会する懇親会がある。今回も大阪協会の企画により、植村日本協会常務理事、市原全日本実業団連盟理事長他多数の来賓を迎え、約110名の参加のもと盛大に催された。

神田大阪協会会長の乾杯で始まった懇親会では、津川元全日本男子監督、蒲生全日本男子監督、緒方全日本女子監督からの有意義な談話があり、全日本チームの現況と今後の抱負を聞くことができた。又、お互にチームの現況、悩み等を話し合ったり、明日の対戦のエールを交換するなどほほえましい光景があちこちで展開された。

以上、参加チーム、関係者の努力により大いに盛り上がった大会であった。現在実業団チームは全国で80弱だが、更に底辺を広げ、当大会がますます発展・盛会になることを関係者の一人として尽力していきたい。

第1回レフェリー・シンポジウム

全国から100名が集まり盛大に

審判委員長　**大塚　文雄**

「レフェリー・シンポジウム」は全国から約１００名のエキスパートを集め、平成５年２月20日(土)・21日(日)の両日、東京・国立オリンピック記念・青少年総合センターで開催された。

開催の目的は「審判技術を中心に、審判界を取り巻く諸問題を分析・検討・研究することにより、ハンドボール界へ反映させていく」との主旨で開催した。

■第１日目

挨拶…中沢　重夫専務理事
　日本ハンドボール界の現状と将来の発展について

冒頭基調講演…大塚文雄審判委員長
　１　ルールについて
　２　レフェリーの研修について
　３　レフェリー活動の実情
　４　レフェリーと監督・コーチの協調

バルセロナ・オリンピック報告…後藤登ルール研究委員
　１　ファースト・ミーティングから(エリアス　ＩＨＦ／ＰＲＣ)
　(1)　競技・審判上の注意
　(2)　特に注意すべき６ポイント
　２　大会中のミーティング
　(1)　全体的な注意点・アドバイス
　(2)　エリアス氏の個人的なアドバイス
　(3)　段階的罰則の適用（ボルスタット　ＩＨＦ／ＰＲＣ）
　(4)　再確認しておきたい事項
　３その他

ＶＴＲを用いたレフェリング技術の分析…江成元伸ルール研究委員
　１　オーバーステップ
　２　チャージング
　３　検討すべき事項（ＧＫのとびだし等）
　４　罰則
　映像を見ながら全員の研究・協議

研究・協議・討論
司会　江成元伸ルール研究委員
★講演についての質問・協議
★主としてルールに関する統一見解について

■第２日目

指導者から見たレフェリング…大西武三指導委員長
　１　ハンドボールの振興とレフェリーの位置
　２　レフェリー・指導者・プレーヤーの相互信頼
　３　ハンドボールとレフェリー
　４　ハンドボールと指導者
　５　指導者からみたレフェリング
　６　レフェリーウォッチング（ベストレフェリー・ワーストレフェリー）
　７　試合における立会人制度

ハンドボールの審判の難しさは何か…清水宣雄ルール研究委員
★他のゴール型球技との比較からの研究

パネラーとの討論
司会　江成元伸ルール研究委員
★速攻時のＧＫのチャージの見解
★ハンドボールの理念についての討論
★ワーストレフェリーからノーマルレフェリーになるには。
★指導者(監督・コーチ)とレフェリー
★審判の広報活動について

今回は、指導委員会から大西委員長にご出席をいただき「監督・コーチの立場から見たレフェリング」の話もあり、自由に討論できる雰囲気で大いに盛り上がった。この熱気を平成５年度は「レフェリーと監督・コーチのシンポジウム」に繋げていきたいと思う。

参加者は北海道から九州まで多数お集まり頂き、各都道府県協会では参加者に対して多大なご支援を賜ったと聞いております。誌上をお借りしましてここに謹んで御礼申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

レフェリーシンポジウムに参加して

大阪府協会　岸本　光夫

待望のシンポジウム開催の知らせに胸を踊らせて会場へ向かうと、全国から集まった多数の参加者に驚愕し、レフェリーに熱意を持つ友を見て勇気づけられました。生来、感想文なるものは苦手であり、乱文をお許し願い、私なりに本シンポジウムを振り返ってみたいと思います。

レフェリーにとっても人格は非常に重要であり、人格を高めていくためには、その構成要素である「知性・理性・感性」のバランス良い積み重ねが必要だと予て考えていました。

この三つの性の重要さは、大塚先生と大西先生の講演の中でも強調されており、素晴らしいレフェリーにとって必要不可欠であると痛切に感じました。

視覚から入る情報をルールと対照しながら認識・判定にまで構築する精神的機能は、知的能力に相当すると考えられます。従って知性の向上のために、観察能力に優れ、かつルールに精通していることが最低限必要であるのは自明の理と思われます。両先生がより重要視されていたのは、理性と感性であるように感じました。ハンドボールの理念と基本原理についての概念的思考の能力は、まさしく理性であり、また「レフェリーの心得十ヶ条」の半数は思慮的に行動する能力によるものと思われます。技術的戦術的行為の失敗と基本原理に背く行為を区別するべきであり、そのためにはハンドボールの概念について、字面だけでなく、さらに深く熟慮する必要があると痛感しました。

スリリングでエキサイティングなゲームによって導かれる精神体験が感性と考えられます。しかし感性が乏しい場合、選手達が作り上げた素晴らしいプレーを笛で潰してしまう場面を度々見受けます。一方、緊迫感の漂う好ゲームのプレーの谷間にレフェリーのユーモアを垣間見るとき、次のナイスプレーに一層の感銘を覚えます。どのようなプレーがファインプレーで人の感動を呼び起こすのかを、改めて考えていくことが肝要と思います。

この三性について個々に論じることは可能ですが、実践の中では相互に関与しているようで、いずれも低いレベルにある私は、ハンドボール界だけでなく、日常の社会生活でも努力していこうと肝に命じています。

大西先生がご指摘されたように、欧諸国の文化の中で生まれ育まれてきたスポーツを、薄い一冊の日本語訳ルールブックですべて解決・処理するのは到底不可能と思われます。例えば、相撲の「けたぐり」「浴びせ倒し」などを英訳・独訳するのが困難であるのと同じと説明されます。

従って、言語学的研究のみでなく、背景となった文代についても理解を深めていくことが大切と考えられます。

自称科学者の私にとって比較的接し易かったのが、江成先生と清水先生の講演でした。画像によりプレーを解析し、得られた情報を統合して再構築し、総合的な観点からプレーおよび判定の評価法を検討しようと試みました。しかし私には時間が足りず、再構築までが精いっぱいでしたので、配布して頂いたビデオをもとに判定を規定する要因について総論的に考察していきたいと考えています。またハンドボールの審判の難しさのひとつは、ファウルの軽重を判断し、かつ退場宣告の内的プレッシャーを受けることであるとのことでした。

この問題を克服する一手段として、明確な判定基準と強靭な精神力が必要と考えられます。

後藤先生からは、オリンピックでの様々な情報を拝聴し、中には私の考えはやはり正しかったと、自信と勇気を与えられた内容もありました。

能力と時間の不足からまとまりが悪く、また演者の先生方の真意に遠く及ばない点が多々あると思いますが、自己反省をもとに探求を重ねて来年のシンポジウムに参加したいと考えています。

最後になりましたが、本シンポジウムを企画・主催、そしてお世話していただいた諸先生方に深甚なる謝意を捧げます。

レフェリーシンポジウムに参加して

愛知県　小林きよみ

今回の第一印象は、参加者名簿を見て「ほとんど教員だなぁ」ということです。なぜでしょう。私は市の職員でありますが、市内のスポーツ行事を見渡しても、ハンドボールほど教員に頼っている種目はない、ということに共通点を見た気がします。全国的に、ハンドボールの審判＝学校の部活動の顧門若しくはどこかの物好き、という公式が成り立っているのでしょうか。現役の選手の皆さんは、教員にならない限り、審判とは無縁と思っているのでしょうか。審判とはそんな別世界のものではないと、私は思うのですが…。

このシンポジウムで感じたのですが、審判は皆、ハンドボールが大好きなのです。よいゲームづくりにかかわることに、やりがいを感じるのです。よいレフェリングをするために、情報交換、コミュニケーションを求め、全国からはるばる東京に会したのです。現役の選手の皆さんに是非このことを理解していただき、審判を身近に感じていただきたいのです。そして、現役を退いたら、指導者も結構ですが、是非審判を目指していただきたいのです。

今、実業団における審判の育成が図られているそうですが、たくさんの実業団出身審判の登場を期待しています。

選手も指導者も、そして審判も、ハンドボール好きの集団であることに変わりありません。今度は是非、選手も指導者も審判も一緒に参加できるシンポジウムの開催を希望します。

それから、もうひとつ希望ですが、こんなことを言うとしかられるかもしれませんが、何かの大会の最後のイベントとして、審判団の試合を行ったらどうでしょうか。学校の支部大会などではときどき行われているかもしれませんが、少し大きな大会でも、コミュニケーションに役立つと思うのですが…。

レフェリーシンポジウムに参加して

愛知県　小林ますみ

この二日間で強く感じたことを一つあげると、それは「コミュニケーションの大切さ」です。

シンポジウムの主催者側からは、できるだけ多くのレフェリーの意見を聞こうという姿勢がうかがわれ、大変ありがたく思いました。これも、日本協会とレフェリーとのコミュニケーションを大切にしようという考えの表れでしょう。

一方、話題の中心は、よいレフェリーとは何かという点にあったと私は受け取っています。ルールの解釈に幅があるために、レフェリーによって笛が異なり、それがチームや観客に不信感を与えます。それを防ぐためには、ゲームを巡るすべての人の共通理解が必要です。レフェリーの待遇は決してよいとは言えません。それでもあえて東京に出向き、待遇向上を訴えるよりも、ベンチやプレイヤー、観客に納得のいく笛を吹くための話題に終始しました。それだけ、今、レフェリー間のコミュニケーションが不足している、ということでしょう。

今回は、レフェリー、日本協力のコミュニケーションをいくらかとることができました。トレーナーサイドの考え方も知りたいという声もありました。これをきっかけに、様々な形で、レフェリーだけでなくトレーナーサイドやプレイヤー、その他いろいろな人々とのコミュニケーションをとる機会が増えていくことを期待しています。

現在「女性レフェリーの育成」が課題の一つとしてあげられているそうです。これも単にレフェリー界のみの課題ではないと思います。コミュニケーションの輪を広げることによって、「私もレフェリーをしてみよう」と思う女性がたくさん出てくるとよいと思います。

レフェリーシンポジウムに参加して

千葉県　滝川　一徳

2月20、21日の両日に全国各地より日頃からレフェリーとして御活躍なさっている方々を集め、第一回レフェリーシンポジウムが開催されました。

第一日目は大塚審判委員長の冒頭基調講演から始まりました。その中で先生は、レフェリーとは人格が重要であり、常に研修・トレーニングを積み、ルールの完璧な知識とその解釈について確実に笛に表せられること、実に、レフェリーとしての特質、人格、精神面の一層の安定を図り、レフェリーがコートに立っただけで、すでにプレーヤー、監督、コーチ達の信頼感が高められるようにならなければならないとおっしゃっていました。又、後藤、島田両先生方のバルセロナオリンピックの報告があり、男子決勝を吹いたスペインのペアが、立派にゲームをまとめあげ、感涙を流しながら花道を引きあげてきた姿に感動されたことや、オリンピックでの経験をもとにした後藤先生の講演は、大変貴重なものだったと思います。次に、江成先生より、1991年のアジア予選のビデオからいくつかの場面をとりあげ、その中のプレーについて、自分ならどう対処するかのアンケートがとられました。そこで感じたことは、参加者78名全員が、必ずしも同じ判定ではないということでした。特にきわどいオーバーステップやチャージング、さらには罰則の基準や、エリア付近のシュートに関する判定については、数多くの議論が交わされました。又、各種全国、ブロック大会での事象がとりあげられ、それらについての熱のこもった議論もなされていました。さらに立会人制度の確立や地方によっての笛の違いについての意見もあり、一日も早く笛が統一されることが、参加者共通の意見だったように思います。

第二日目は、大西指導委員長より、指導者からみたレフェリングというお話があり、それについての討論となりました。特にその資料の中での指導者からみたベストレフェリー、ワーストレフェリーの例は、参加者のほとんどが、時には指導者として、時にはレフェリーとしてハンドボールに接しているわけですから、非常に興味深いお話だったと思います。そこでは、やはり指導者、レフェリーというお互いの立場を理解しながら、ハンドボールを発展させていこうということが、参加者全員の考えであったと思います。そのためにも、大西先生がおっしゃったように、選手のプレーを生かすも殺すも、レフェリーのハンドボールに対する理念と技術であり、しかしその技術とは神業であるから、レフェリーは常にハンドボールの現場に接し、訓練を怠らないよう努力し、またそれを取り巻く人々は、レフェリーの立場の理解に努め、レフェリーの成長を暖かく、時には厳しく見守っていくことが必要であるというお話は、一個人としてもそれぞれの立場で努力していかなければと感じました。また、昨年のインカレでのゴールキーパーの飛び出しの例について、危険なプレーか、それともチャージングなのかについても議論がなされ、プレーヤーの安全を守ることも、レフェリーとして大切ではないかと感じさせられました。

このシンポジウムに参加させて戴き、一番感じたことは、それぞれの方々が、それぞれの立場で日本のハンドボールを発展させようと努力し、考えていらっしゃることではなかったかと思います。自分も指導者として、あるいはレフェリーとしてまだまだ未熟ではありますが、このシンポジウムで勉強させて戴いたことを生かし、頑張らなければならないと考えました。

最後に、このシンポジウムを開催し、大変実のあるものにして下さった大塚先生はじめ、関係各位の方々に心よりお礼を申し上げ、今後もこのような会を是非とも開催して戴きたいとお願いし、感想とさせて戴きたいと思います。

コーチ研修報告③

ケルン大学について

ドイツより　田口　隆

今回は私が通っているケルン大学についてお便りします。

ケルン大学は、ケルンの中央駅から路面電車を利用し、約20分ぐらいのところで、閑静な住宅街に隣接したところにあります。近くには住宅街の他にサッカーチームとして有名な1FCケルンのホームグランド、そして数々のスポーツクラブがあります。休日にはドイツ人が大勢散歩をしに出かける（ドイツ人は散歩が好きな様です）大きな公園等、とても環境のよいところです。

学校内には学生寮、大小様々な体育ホール、教室、そして室内陸上競技場など、ありとあらゆるスポーツが出来る施設が整っています。

学期は4月から始まる夏学期と、9月から始まる冬学期に分かれています。私は11月の中旬にドイツに来ましたので、冬学期の途中から参加しております。次に授業の様子といえば、私自身、大学は体育学部でなかったため、体育の授業といえば、各競技毎にゲーム中心で、本当に概略のみの授業しか経験していなかったので、ドイツで本格的に学校でのハンドボールの授業を大変楽しみにしていました。ある授業では、GKのトレーニングについて行われました。アップから始まり、GKとして必要な柔軟体操、そしてフットワーク、反射的に反応するトレーニング、位置どり、ボール出し、GKのあらゆる動作について全員がGKになり学びました。その他、CPに関してもそれぞれ各ポジション毎に授業が行われます。例えばサイドシューターに関しての授業では、ボールを取る前の位置どり、エリア内への飛び込み方、飛び込む角度、そしてシュートテクニック（逆スピン、ループシュート、バックシュート等）の授業が行われました。

技術的には未熟な学生たちも、理論的には、この様な授業を受けているため、よく理解している様です。

後日、私が仲良くしている一人の学生の家へ行くと、その時の授業（サイドシューター）をまとめてあるものを見せてもらいました。すると授業で行った事はもちろん、それ以外の事もしっかりとまとめてありました（例えば、逆スピンの時のボールの握り、ボールを落す位置等）。私は、この学生だけがそうであるのかと思ったら、他の学生にも同じ授業の時のものを見せてもらいました。すると、この学生もしっかりまとめてあり、驚きました。と同時に、第一線でプレーしている人はもちろんの事、それ以外にもしっかりとハンドボールの理論が浸透している事にも感心させられました。

学生の中には教師を目指す者、スポーツクラブでのトレーナーを目指す者、スポーツジャーナリストを目指す者等、目指す進路は様様でありますが、"ドイツのハンドボール"を学校でしっかり学んでいる事を考えれば、そこで学んだ人達がナショナルチームであろうが、町の小さなクラブチームであろうが、又、観る側の人であろうが、基本的には同じハンドボール理論を持っている事になります。選手育成の面を取れば、指導者によりオリジナルな部分ではいろいろと違うところが出ていても、基本的な考え方は皆同じなため、選手が実力に応じ、自分がどこでプレーするかという場合にも戸惑いはなく、スムーズに行くのではないでしょうか。日本でもナショナルチームを強くしていくためには頂点強化はもちろん今迄も、今もしっかり行われていると思いますが、その基となるところでのシステム作りが早急に積極的に行われないと、当り前の様にそれが行われているヨーロッパの各国にどんどん取り残されていかれる可能性も大きいのではないかと思います。今回、この様な事を今迄にも増して痛感しました。

全日本学生ハンドボール連盟

平成4年度優秀選手決定!!

1月30日に行われた当連盟総合役員会において、平成4年度の優秀選手の選考が行われ、別掲のような各選手が決定致しましたので、ご報告申し上げます。

従来は、各地区学生連盟、東日本及び西日本の両学生選手権大会並びに全日本学生選手権大会のみの優秀選手の表彰はありましたが、連盟として年間でトータルで見た優秀選手の表彰を行う事がありませんでしたので、本年度より『年度優秀選手』の表彰を行う事となり、今回、第一回目の年度優秀選手の選考を行いました。

優秀選手

■男子の部

位置	氏名	所属大学	学年	出身高校
GK	※荒木　進	早稲田大学	4	熊本市立商高
GK	※長嶺　重信	日本体育大学	4	小禄高
GK	堀　憲司	中部大学	4	倉敷工業高
GK	四方　篤	大阪体育大学	2	北陽高
CP	福井　康弘	函館大学	4	日大明誠高
CP	※岩本　真典	早稲田大学	4	熊本市立商
CP	※中野　一隆	早稲田大学	4	桃山学院高
CP	藤本　元	筑波大学	4	東邦大学附高
CP	※鎌田　照幸	筑波大学	4	天草高
CP	白石　淳	新潟大学	4	富岡高
CP	※日原　正和	名城大学	4	春日井東高
CP	※松原　晋也	大阪体育大学	4	育英高
CP	※森本　彰宏	大阪体育大学	4	北陽高
CP	山内　茂樹	大阪体育大学	4	岡崎城西高
CP	※森岡　健二	大阪経済大学	4	上宮高
CP	鈴村　和也	大阪教育大学	4	桜台高
CP	清水　亮	福岡大学	4	久留米工業大附高
CP	荻本　将勝	国士館大学	3	大分電波高
CP	※木浪　達文	国士館大学	3	青森商業高
CP	※冨本　栄次	日本体育大学	3	日体荏原高
CP	※小沢　勝利	日本体育大学	2	横浜商工高
CP	※広政　宜孝	筑波大学	1	下松工業高

■女子の部

位置	氏名	所属大学	学年	出身高校
GK	今野　清美	東京女子体育大学	4	聖和学園高
GK	小前田たまき	筑波大学	2	小松市立女高
CP	山田　真紀	日本体育大学	4	東海女高
CP	桐谷　律子	日本体育大学	4	佼成女高
CP	福西　文子	日本体育大学	4	宜真高
CP	本間　尚美	東京女子体育大学	4	藤村女高
CP	野村由加里	筑波大学	4	三井高
CP	陰　治恵子	中京女子大学	4	名短大附高
CP	国枝　千明	中京女子大学	4	名短大附高
CP	柿並美津子	大阪体育大学	4	鈴蘭台高
CP	西村　聖子	武庫川女子大学	4	四天王寺高
CP	儀保　千夏	福岡大学	4	具志川高
CP	飯田　雅美	東京女子体育大学	3	名短大附高
CP	大林　まり	武庫川女子大学	3	夙川高
CP	何　剣　萍	日本体育大学	1	上海体育運動技術学院
CP	稲次　彩	筑波大学	1	宜真高
CP	甲斐万起子	福岡教育大学	1	大分雄城台高

（※印は全日本学生選抜出場者）

競技用品の検定について

ハンドボール競技に用いる用具については皆様ご承知の通り「財団法人日本ハンドボール協会競技用具検定規程」で細かく規程されています。その第１条に「ハンドボール競技に用いる用具は財団法人日本ハンドボール協会の検定を受けたものでなければならない」と決められています。

現在、当協会が認めている検定品のメーカーはボール４社、ゴールポスト12社、ゴールネット６社ですが、ここしばらく会合も開かず、お互いに多くの問題を抱えたままの状態になっていました。この状態を打破し、より良い競技用具を普及するためにはどうしたら良いのかを話し合うため、２月４日に検定業者18社と当協会から中沢専務理事、大塚審判委員長他が出席して検定業者会議を開催しました。

久し振りの会議であった為、双方から多くの問題が提起されました。この解決のため、品目別の分科会を設けることが決定しました。

今後は、より安全に、より高度なプレーが出来るよう、そしてハンドボールの普及に役立つよう検討を重ねると共に「競技用具検定規定」が遵守されるよう努力して行きたいと思います。

当協会の検定品業者は左記の通りです。用具の購入はこの業者の製品を必ずご指定下さい。

検定業者名簿 (順不同)

■ボール

業者名	所在地	TEL
(株)モルテン	〒130 東京都隅田区横川5-5-7	TEL 03-3261-4551
明星ゴム工業(株)	〒733 広島市西区楠木町3-11-2	TEL 082-237-5145
タチカラ(株)	〒111 東京都台東区松ケ谷1-11-7	TEL 03-3842-6811
ミズノ(株)	〒101 東京都千代田区神田小川町3-22	TEL 03-3233-7134

■ゴールネット

業者名	所在地	TEL
テイエヌネット(株)	〒136 東京都江東区亀戸4-45-15	TEL 03-3637-3232
松本製網(株)	〒581 大阪府八尾市福万寺町4-72	TEL 0729-22-3217
(株)アシックス	〒564 大阪府吹田市豊津町2-3	TEL 06-385-1111
高須賀(株)	〒136 東京都江東区亀戸3-43-24	TEL 03-3684-7791
(株)寺西喜商店	〒581 大阪府八尾市福万寺町4-31	TEL 0729-22-3210
(有)ミセキネット製作所	〒340-01 埼玉県幸手市中1-7-4	TEL 0480-42-0379

■ゴール

業者名	所在地	TEL
イノコ(株)	〒454 名古屋市中川区山王4-6-34	TEL 052-331-3311
(株)都村製作所	〒766 香川県仲多度郡琴平榎井590	TEL 0877-73-2251
栗林体器(株)	〒877 大分県日田市玉川169	TEL 0973-22-5151
三和体育(株)	〒332 埼玉県川口市緑町9-15	TEL 0482-56-2368
(合)上坂鉄工所	〒130 東京都墨田区本所4-28-8	TEL 03-3622-8171
(株)小川長春館	〒721 広島県福山市引野町5-4-23	TEL 0849-41-0230
(株)舟岡製作所	〒130 東京都墨田区石原4-34-2	TEL 03-3624-0551
セノー(株)	〒101 東京都千代田区神田司町2-7	TEL 03-3292-5411
(株)中村体育	〒386-01 長野県上田市国分仁王堂1190-4	TEL 0268-22-0896
(株)藤栄	〒110 東京都台東区入谷1-9-10	TEL 03-3786-0641
赤羽根工業(株)	〒343 埼玉県越谷市増森207-1	TEL 0489-65-1571
(株)ニシオカ	〒558 大阪市住吉区南住吉3-17-5	TEL 06-693-5756

県協会だより

千葉県ハンドボール協会

千葉県ハンドボール協会は創立40周年を迎えました。昨年、一昨年と2年がかりで記念行事を実施して来ました。一昨年の12月、高校1、2年生で結成した県選抜の男女30名と役員10名で台湾に親善試合に行きました。この行事は生徒達に夢を持たせるために実施したわけですが、台北、台中でそれぞれ男女とも2試合ずつ計8試合行ない、男子は3敗1分、女子は2勝2敗という結果でありました。高校生には言葉も習慣も違う相手と試合をすることにより、国内での試合は余裕をもって取り組む事ができると私は確信しました。

年は明けて、いよいよこのメンバーを中心として平成4年が始まり、昭和が全国選抜大会第3位、夏のインターハイでは市川高校が準優勝、昭和が選抜に続いて3位となり、昭和48年の千葉国体から約20年、協会の力をもう一つアップしたい、現状維持でなくいつも前向きにと皆んなが努力する集団なればと思っていました。そして昨年の10月の山形国体に昭和51年の佐賀国体以来の少年男女アベック出場となりました。今年の選手もスタッフも生命がけで挑戦してくれました。我々応援団はノンビリ試合観戦などしてはいけない、私達もいっしょになって試合に挑む気持でないとと反省しました。

試合結果は少年男子は3位、女子は4位で「佐賀国体」以来の16年ぶりの天皇杯6位になり、皇后杯も7位に入賞できました。この時の閉会式に参加して感じた事ですが、年々式が立派になり、特に今年の少年の部の閉会式は非常に驚きと同時に生徒達にとって二度と忘れる事のないすばらしい閉会式を企画していただき、山形県の尾花沢市の皆さんに深く感謝しております。

国体入賞の結果を得て、10月30日に創立40周年のまとめである「40周年記念式典」を船橋で催しました。昭和48年までの千葉県の歴史は、大会に出場したとか、大会を開催したとかの記録で、48年以降は関東大会や全国大会で入賞できるようになり、この20年間の諸先輩の努力に感謝し、お礼を申し上げると同時に創立41年目から50年、60年に向けて千葉県の若いハンドボーラーに夢を描いてもらって、その実現に向けて歩き出してくれるよう願う「記念式典」でもあります。

これから歩く方向と道をどう見つけて行くかはそれぞれにありますが、サッカーに進むか、ラグビーに進むか、日本ハンドボール協会は方向をはっきりとさせなくてはならないのでは無いかと思います。時にはバスケット方向に走っていた時もありますが…。

昨年、千葉で東日本インカレを運営しました。県ではチャンスがあれば全国大会を、又、海外親善試合をと考えております。なぜかは、県内の競技レベルがアップするし、審判技術もかならず向上して大変な分だけ千葉県にエネルギーが生まれるからです。この大会の観客の中から聞こえて来る話しの中に「みんな同じハンドボールでおもしろくない」と言う声です。韓国が世界のトップレベルに昇り詰めた方法かもしれないが、これからのハンドボールを考えると、見て楽しい、変化があって意外性がある、試合を見て燃えるものを感じるとか、何かを与えなくてはほんとうの意味でのハンドボール時代の到来は無いのではないかと思います。

それには何を企画すればよいか。千葉県で何ができるか。実現させたいのはぜひ世界選手権をと考えます。日本のハンドボーラーの全てのエネルギーを結集して、世界一のプレーを生で観戦し、そのすばらしさを自覚すべきです。我々千葉県のハンドボーラーも微力ながら力になりたいと常日頃胸の中に温めております。

（文責　理事長　稲生　茂）

石川県ハンドボール協会

本県ハンドボールの発足は、昭和21年12月杉本藤太郎、中本文雄理事長のもとに産声をあげ、本年で45年を経ようとしています。

当時は、戦後の虚脱と混乱の中で、国民に勇気と希望を与え、新しい日本の建設を目ざしての国体開催が決定されていた。国体の開催を控えていてもハンドボールは無知に等しく、隣県富山より嶋田新太郎、島田重春の両氏と日本協会より的場益雄、外山雄二の両講師を招き、競技の基盤を創り今日の隆盛に至っています。

11人制における全国大会の成績は今一歩の感がありましたが、第2回国体（金沢）では学生女子が第2位、第4回国体に高校女子の小松高第3位、第4回西日本大会松任高（男子）第2位、第10回全日本高校で羽咋高（女子）の第2位と、高校女子の活躍の跡がみられた。尚、昭和26年小松市において全日本総合が男女17チームの参加の基に開催し、競技の向上にと努めて来ました。

昭和38年7人制の移行により、登録者数等は直ちに変動は見られないものの、除々に新しいチームの誕生がみられた。奥能登の珠洲実高、全国高校女子界の雌小松市女高も昭和40年に全国制覇を目ざし創部となる。

厳しい練習の中で真なるハンドボールと人間性の完成を目ざした谷口俊春（現小松市女校長）氏の指導は、本県の競技の向上発展に多くの教示を与え、次の各種全国大会の上位入賞へと受け継がれている。以下全日本大会の主な成績を列挙してみます。

昭和48年小松市女全国高校選手権に初優勝。国体6回、選抜4回、高校選手権6回と18回の全国制覇を成し、昭和56・61年三冠達成している。全国中学大会では昭和57年芦城中が男女アベック優勝。翌年寺井中女子の優勝、昭和61年芦城女子が再度優勝している。クラブ選手権では、小松クラブが女子で平成元・2年と連続優勝。男子3年と優勝杯を手中にしている。昨年は国体成年2部優勝、第43回全日本総合に北国銀行が新王者となる。

全国優勝27回の輝やかしい成績は直接指導に当たられた監督の方々は勿論ではありますが、偏に協会の発展に貢献された方々を紹介させて戴きます。大橋敏夫、西尾他嘉志、天野耕兵衛、若山博と歴代の理事長。升井友治、宮川栄一、大林孝則、菊田淳一、宮口優、橋本隆の諸氏は日夜寝食を忘れ指導をなされ、故人では油谷、中川、長永氏の情熱と献身的な尽力に感謝を致します。

昨年小松市で開催された第46回国体では、激戦の中、天皇・皇后賜杯を感動の内に獲得しえたのは、中学より成年までの一環された強化策の成果と自負しています。特に成年男子は全くの混成で職場と練習で苦労が多かった。中学校・高校・大学・一般と60台の登録数は他に比べても決して多くは無く、地元選手での純血と、戦いは焦慮と不安の中での快挙と云える。「石川国体」を終え空虚な感じもしますが、更なる発展と競技水準の向上へと大なる目標に奮闘されている協会役員を紹介をさせていただきます。

会長・米谷、副会長・寺垣、久木、谷口、理事長・村井、副理事長・表、川端、審判部・伊藤、庶務・榎木、学連・曽谷、中体連・浜野、高体連・古橋……の方々です。施設は総体・国体で整備されましたが、まだまだ充分と云いきれぬ所もあります。当面の課題として、次の事を話題として諸策に取りくんで行きます。

(1) 指導者の育成と適正を行う。
(2) 小・中・高校の連携指導と強化の実施。
(3) 末普及地区の普及

以上

気候と地理的ハンディを越えて、女子陣は数多くのナショナル選手を誕生させています。

今後は生涯スポーツの一端として明るく、楽しい、強いチームの育成に先輩諸氏に劣ることなく日夜努力をして行きます。今後とも一層のご自愛とご支援をお願い致します。

（文責　村井）

各地の大会結果

東北

第42回青森県高校秋季大会

（11月21、22日／野辺地高校体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

青森山田 18－6 横浜分

▼2回戦

青森山田 23－16 五所工
野辺地工 15－14 七戸
今別 23－13 鯵ヶ沢
青森商 25－11 三本木
青森南 16－14 野辺地
青森東 37－16 三本木農
十和田工 28－6 柏木農
青森 30－10 五所

▼3回戦

青森山田 27－9 野辺地工
青森商 20－17 今別
青森南 27－17 青森東
青森 27－12 十和田工

▼準決勝

青森商 18－18（3PTC2）青森山田
青森 19－16 青森南

▼決勝

青森商 22（9－8、13－8）16 青森

〈女子〉

▼1回戦

青森中央 33－5 今別
六ヶ所 9－6 三本木
青森西 40－4 青森東
青森商 14－11 野辺地

▼準決勝

青森中央 31－8 六ヶ所
青森西 16－13 青森商

▼決勝

青森西 23（10－10、13－12）22 青森中央

関東

第13回群馬県新人大会

（11月1～3日／藤岡市民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

藤岡北中 29－11 矢中中
甘楽三中 14－13 藤岡南中
富岡東中 15－14 相生中
南八幡中 19－16 松南中
下仁田西中 23－3 下仁田東中
甘楽二中 21－11 富岡西中

▼2回戦

富岡南中 33－11 藤岡北中
富岡東中 23－13 甘楽三中
下仁田西中 34－17 南八幡中
富岡中 18－17 甘楽二中

▼準決勝

富岡南中 23－12 富岡東中
下仁田西中 22－19 富岡中

▼決勝

富岡南中 19（9－9、10－8）17 下仁田西中

〈女子〉

▼1回戦

松南中 14－13 矢中中

▼2回戦

富岡中 23－10 松南中
富岡南中 14－12 塚沢中
富岡西中 18－12 相生中
富岡東中 13－6 高南中

▼準決勝

富岡中 22－10 富岡南中
富岡西中 10－7 富岡東中

▼決勝

富岡中 20（12－2、8－3）5 富岡西中

群馬県高校新人大会

（11月22、23日／富岡高校体育館ほか）

〈男子〉

▼決勝1位リーグ

吉井 24－19 藤岡
富岡 20－18 富実
吉井 25－16 富実
富岡 29－15 藤岡
富岡 24－12 吉井
富実 28－14 藤岡

▼2位リーグ

前橋商 27－19 下仁田
高崎東 18－12 高崎工
前橋商 24－17 高崎東
下仁田 28－14 高崎工
前橋商 26－21 高崎工
下仁田 22－16 高崎東

〔順位〕①富岡②吉井③富実④藤岡

〈女子〉

▼決勝1位リーグ

桐生西 14－10 吉井
群馬女 28－15 桐生西
群馬女 19－12 吉井

▼2位リーグ

桐生女 15－10 高崎東
桐生女 19－11 高崎女
高崎女 10－9 高崎東

〔順位〕①群馬女②桐生西③吉井

第8回関東少年少女大会

（日付・会場不明）

〈男子〉

▼1回戦

塩山スポ少A 17－3 野火止ク
筑波学園ク 14－12 富岡少年ク
大宮北小 7－4 守谷ク
吉川中央ファイターズ 22－1 塩山スポ少

▼準決勝

塩山スポ少A 10－7 筑波学園ク
大宮北小 14－8 吉川中央ファイターズ

▼決勝

塩山スポ少A 11（5－3、6－2）5 大宮北小

〈女子〉

▼1回戦

日吉台バード 8－3 塩山スポ少A
妙義SC 20－2 立野ストロング
筑波学園ク 9－2 野火止ク
大宮北小 7－2 坂戸NC

▼2回戦

日吉台バード 8－4 妙義SC
大宮北小 6－4 筑波学園ク

▼決勝

日吉台バード 6（0－3、6－2）5 大宮北小

●東京都ハンドボール協会長杯

〈男子〉

▼1回戦

富岡少年ク 13－8 野火止ク
守谷ク 18－0 塩山スポ少

▼決勝

富岡少年ク 9－6 守谷ク

〈女子〉

▼1回戦

塩山スポ少 9－1 立野ストロング
坂戸NC 9－4 野火止ク

▼決勝

塩山スポ少 7－1 坂戸NC

北信越

長野県高校新人大会

（11月6～8日／更埴市体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

臼田 26－13 梓川
美須々 29－6 上田千曲
蟻ヶ崎 31－26 長野東

▼2回戦

上田 33－17 蟻ヶ崎
更級農業 31－6 富士見
屋代 26－13 野沢北
田川 19－17 野沢南
諏訪清陵 25－13 美須々
小諸 26－7 長野南
松本第一 12－0 北佐久農
坂城 35－16 臼田

▼準々決勝
上田 33－9 更級農業
屋代 28－12 田川
小諸 22－13 諏訪清陵
坂城 40－11 松本第一

▼準決勝
屋代 17－14 上田
坂城 16－14 小諸

▼決勝
坂城 16（9－7、7－5）12 屋代

〈女子〉

▼1回戦
北佐久農 14－12 坂城
美須々 18－7 更級農業
小諸商業 23－2 長野南
佐久 25－4 田川

▼2回戦
屋代 26－16 佐久
小諸商業 28－6 蟻ヶ崎
臼田 19－5 美須々
塩尻 21－10 北佐久農

▼準決勝
屋代 25－4 小諸商業
塩尻 19－16 臼田

▼決勝
屋代 32（16－4、16－3）7 塩尻

福井県高校新人大会

（11月14、16日／羽水高校体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
北陸 35－5 藤島
羽水 23－18 武生
金津 22－10 科技
高志 22－14 武東

▼準決勝
北陸 27－7 羽水
高志 16－14 金津

▼決勝
北陸 40（18－2、22－6）8 高志

〈女子〉

▼1回戦
福井農 18－7 藤島

▼2回戦
福井商 28－6 福井農
福井女 28－21 武生商
羽水 39－4 科技
仁愛女子 32－2 高志

▼準決勝
福井商 19－5 福井女
仁愛女子 33－0 羽水

▼決勝
仁愛女子 19（9－4、10－7）11 福井商

東海

第15回三重県高校秋季大会

（11月8日～22日／桑名工

〈男子〉

▼1回戦
津東 14－9 上野
桑名工 29－5 四日市西
津西 15－11 桑名北
津 18－12 津工
尾鷲 12－0 名張西
四日市四郷 18－7 海星

▼2回戦
四日市工 35－2 津東
四日市中央工 30－4 朝明
桑名工 45－7 上野工
高田 18－17 津西
亀山 37－6 津
川越 34－8 尾鷲
四日市 14－10 四日市南
桑名 17－6 四日市四郷

▼3回戦
四日市工 31－1 四日市中央工
桑名工 27－10 高田
亀山 22－3 川越
桑名 10－9 四日市

▼準決勝
四日市工 19－9 桑名工
亀山 14－13 桑名

▼3位決定戦
桑名工 15－13 桑名

▼決勝
亀山 14（5－4、9－9）13 四日市工

〈女子〉

▼1回戦
四日市 11－7 松阪女子
名張西 21－1 桑名
上野 10－7 四日市四郷
津東 20－5 津
川越 12－0 尾鷲
四日市南 9－5 四日市西

▼2回戦
暁 34－3 四日市
名張西 16－10 上野
津東 28－4 川越
四日市商 28－9 四日市南

▼準決勝
暁 26－2 名張西
四日市商 15－3 津東

▼3位決定戦
津東 18－5 名張西

▼決勝
暁 17（10－3、7－1）4 四日市商

近畿

第36回京都府高校新人大会

（11月1～22日／太陽丘体育館ほか）

〈男子〉

▼予選リーグ

●Aブロック
桂 32－0 洛陽工
桂 23－10 桃山
桂 18－14 堀川
桂 20－12 城南
堀川 26－1 洛陽工
堀川 20－5 桃山
堀川 14－8 城南
城南 16－2 洛陽工
城南 21－4 桃山
桃山 12－0 洛陽工

●Bブロック
洛北 24－2 日吉丘
洛北 27－8 東稜
洛北 8－6 両洋
洛北 27－4 城陽
東稜 17－5 日吉丘
東稜 11－8 両洋
東稜 15－5 城陽
両洋 20－13 日吉丘
両洋 17－12 城陽
日吉丘 16－9 城陽

●Cブロック
洛水 11－11 洛星
洛水 14－11 同志社
洛水 22－5 塔南
同志社 16－14 洛星
同志社 16－8 塔南
洛星 19－13 塔南

●Dブロック
北嵯峨 19－15 平安
北嵯峨 7－4 山城
北嵯峨 15－7 東山
平安 13－8 山城
平安 13－12 東山
山城 9－5 東山

●Eブロック
京都西 22－9 西宇治
京都西 15－3 南八幡
京都西 23－10 乙訓
西宇治 12－6 南八幡
西宇治 10－7 乙訓
乙訓 17－7 南八幡

●Fブロック
大谷 18－9 洛西
大谷 20－10 京都学園
大谷 20－7 伏見工

京都学園 20－10 洛西
京都学園 22－7 伏見工
洛西 12－7 伏見工

●Gブロック
向陽 13－9 嵯峨野
向陽 13－3 西乙訓
向陽 20－11 北稜
嵯峨野 14－7 西乙訓
嵯峨野 23－12 北稜
北稜 15－14 西乙訓

●Hブロック
東宇治 43－3 木津
東宇治 25－12 田辺
東宇治 36－10 洛東
田辺 26－2 木津
田辺 26－8 洛東
木津 11－10 洛東

▼決勝トーナメント1回戦
桂 15－14 嵯峨野
東宇治 28－11 東稜
京都西 26－11 同志社
北嵯峨 17－10 京都学園
洛水 20－19 田辺
大谷 16－14 堀川
向陽 17－8 平安
洛北 21－12 西宇治

▼2回戦
東宇治 19－12 桂
北嵯峨 22－13 京都西
大谷 23－9 洛水
洛北 18－9 向陽

▼準決勝
北嵯峨 19－10 東宇治
洛北 19－10 大谷

▼3位決定戦
東宇治 17－15 大谷

▼決勝
北嵯峨 17（9－8、6－7）13 洛北

〈女子〉

▼予選リーグ

●アブロック
洛北 12－0 鴨沂
洛北 25－9 精華
洛北 31－4 京都女子
洛北 29－2 山城
京都女子 12－0 鴨沂
京都女子 16－3 精華
京都女子 12－3 山城
精華 12－0 鴨沂
精華 16－7 山城
山城 12－0 鴨沂

●イブロック
向陽 17－4 南八幡
向陽 24－3 日吉丘
向陽 20－4 京都学園
向陽 17－9 桂
南八幡 13－1 日吉丘
南八幡 6－6 京都学園
南八幡 11－7 桂
京都学園 10－4 日吉丘
京都学園 19－8 桂
桂 8－8 日吉丘

●ウブロック
東宇治 15－5 西山
東宇治 24－3 久御山
東宇治 12－8 北嵯峨
東宇治 18－3 北稜
北嵯峨 16－2 西山
北嵯峨 21－4 久御山
北嵯峨 18－3 北稜
久御山 12－5 西山
久御山 5－5 北稜
北稜 5－5 西山

●エブロック
城南 22－3 西宇治
城南 16－2 乙訓
城南 9－6 光華
光華 12－11 西宇治
光華 10－9 乙訓
乙訓 8－4 西宇治

●オブロック
府立商 36－2 西乙訓
府立商 28－4 明徳商
府立商 23－3 東稜
東稜 8－8 西乙訓
東稜 13－7 明徳商
明徳商 9－8 西乙訓

●カブロック
桃山 21－4 塔南
桃山 16－9 洛水
桃山 20－0 洛東
洛水 20－8 塔南
洛水 32－5 洛東
塔南 7－7 洛東

▼決勝トーナメント1回戦
南八幡 14－12 東稜
北嵯峨 15－8 桃山
府立商 21－9 光華
京都女子 12－9 洛水

▼2回戦
洛北 28－5 南八幡
城南 16－7 北嵯峨
府立商 14－12 東宇治
向陽 22－14 京都女子

▼準決勝
洛北 28－6 城南
向陽 26－11 府立商

▼3位決定戦
城南 19－13 府立商

▼決勝
洛北 23（7－6、16－7）13 向陽

和歌山県秋季大会

（11月1、3日／県立那賀高校）

〈高校・一般男子〉

▼1回戦
御坊ク 14－12 新宮商高
海南ク 17－13 自馬ク
那賀高 21－9 海南高
近大和歌山高A 25－13 和歌山ク
和工高 24－4 和歌山東高
和歌山大 40－29 笠田高
貴志川高 20－20 箕島高
桐蔭高 25－7 県和商高
粉河高 21－8 近大和歌山高B
御坊商工高 棄権 新宮ク

▼2回戦
住友金属 33－7 御坊ク
海南ク 15－13 市和商高
那賀高 9－7 近大和歌山高A
耐久高 13－11 和工高
那賀ク 34－15 和歌山大
県和商ク 20－17 貴志川高
粉河高 9－9 桐蔭高
2 PTC 1

▼3回戦
紀北農芸高 17－7 御坊商工高
住友金属 17－8 海南ク
那賀高 15－15 耐久高
3 PTC 2
那賀ク 28－20 県和商ク
紀北農芸高 8－6 粉河高

▼準決勝
住友金属高 27－12 那賀高
那賀ク 26－5 紀北農芸高
▼決勝
那賀ク 21（13－8、8－7）15 住友金属

〈高校・一般女子の部〉
▼1回戦
県和商高 10－7 新宮商高
桐蔭高 10－1 御坊商工高
初芝橋本高 32－2 オレンジ
笠田高 24－7 県和商ク
貴志川高 9－4 箕島高
海南高 12－11 和歌山大
那賀高 25－2 粉河高
▼2回戦
那賀ク 11－9 県和商高
初芝橋本高 37－1 桐蔭高
笠田高 11－8 貴志川高
那賀高 27－5 海南高
▼準決勝
初芝橋本高 18－15 那賀ク
那賀高 11－7 笠田高
▼決勝
那賀高 10（7－5、3－4）9 初芝橋本高

〈中学校男子〉
▼1回戦
紀伊 32－5 打田
那賀 16－10 西和
貴志川 13－6 湯浅
▼2回戦
岩出 35－9 近大和歌山
金屋 21－11 紀伊
岩出第二 21－13 那賀
貴志川 15－11 有功

▼準決勝
金屋 13－10 岩出
岩出第二 13－12 貴志川
▼決勝
金屋 29（15－3、14－2）5 岩出第二

〈中学校女子〉
▼1回戦
岩出第二 11－5 桃山
打田 16－7 粉河
貴志川 17－2 那賀
▼準決勝
岩出第二 12－8 打田
岩出 25－6 貴志川
▼決勝
岩出 14（7－0、7－2）2 岩出第二

中国

山口県高校選手権

（9月27～28日／下関中央工業高校ほか）

〈男子1部〉
▼1回戦
下松 12－10 西京
▼2回戦
下松工 26－10 下松
岩国工 16－14 下関中央
高水 20－18 小野田工
岩陽 22－11 下関西
▼準決勝
下松工 17－8 岩国工
岩陽 23－7 高水
▼決勝
下松工 22（10－5、12－5）10 岩陽

〈男子2部〉
▼1回戦
岩国 21－7 華稜
早鞆 10－8 野田学園
徳山商 17－14 下関第一
徳山 10－7 防府西
徳山工 14－8 防府商
山口 11－6 南陽
岩国商 21－8 聖光
宇部工 12－7 下関工
▼2回戦
岩国 23－5 早鞆
徳山商 15－14 徳山
徳山工 15－9 山口
岩国商 13－8 宇部工
▼準決勝
岩国 18－7 徳山商
徳山工 11－6 岩国商
▼決勝
岩国 29（17－1、12－6）7 徳山工

〈女子1部〉
▼予選リーグA
徳山商 25－17 高水
高水 16－5 徳山
徳山商 25－8 徳山
（順位）①徳山商②高水③徳山
▼予選リーグB
岩国商 18－12 華陵
岩国商 24－10 熊毛北
華陵 11－5 熊毛北
（順位）①岩国商②華陵③熊毛北
▼3位決定戦
華陵 12－6 高水
▼決勝
岩国商 16（6－8、10－6）14 徳山商

〈女子2部〉
▼1回戦
防府西 18－6 響
▼2回戦
長府 18－1 防府西
高森 11－7 防府商
岩国 17－7 山口中央
岩陽 12－11 西京
▼準決勝
高森 8－5 長府
岩国 14－12 岩陽
▼決勝
岩国 14－10 高森

第45回山口県中学校大会

（10月11～12日／平川中学校）

〈男子〉
▼1回戦
高千帆 16－8 大畠
末武 26－3 東部
熊毛 21－9 須金
玄洋 17－9 鴻南
深浦 22－21 菊川
▼2回戦
下松 30－7 高千帆
周陽 24－14 文洋
美川 20－9 小野田
末武 25－16 天尾
日新 18－10 熊毛
北河内 48－3 竜王
平田 24－5 玄洋
住吉 30－10 深浦
▼3回戦
下松 14－7 周陽
美川 16－14 末武
日新 13－11 北河内
住吉 17－11 平田
▼準決勝
美川 11－10 下松
住吉 15－11 日新
▼決勝
住吉 16（10－9、6－4）13 美川

〈女子〉
▼1回戦
河内 19－4 岐陽
周陽 17－8 太華
▼2回戦
末武 14－12 河内
住吉 18－9 熊毛
下松 12－9 平田
玖珂 19－13 周陽
▼準決勝
末武 23－21 住吉
玖珂 10－8 下松
▼決勝
末武 16（8－4、8－7）11 玖珂

山口県高校新人大会

（11月8、9日／徳山市総合スポーツセンター）

〈男子〉
▼1回戦
宇部工 12－0 早鞆
下関工 23－9 野田学園
下関中央工 21－5 山口
岩国商 15－11 徳山工
下関西 19－10 下松

岩国 25－11 小野田工
南陽工 10－9 防府商
華陵 28－13 下関第一
防府西 19－14 聖光

▼2回戦
下松工 41－4 宇部工
下関中央工 29－9 下関工
徳山商 18－10 岩国商
高水 18－14 下関西
岩国 12－11 岩国工
徳山 24－3 南陽工
華陵 22－14 西京
岩陽 28－5 防府西

▼3回戦
下松工 24－7 下関中央工
高水 17－14 徳山商
岩国 25－8 徳山
岩陽 31－9 華陵

▼準決勝
下松工 25－6 高水
岩陽 20－19 岩国

▼決勝
下松工 21（11－1、10－1）2 岩陽

〈女子〉

▼1回戦
高森 31－3 山口中央
西京 17－10 響
高水 27－4 防府
華陵 29－8 岩陽
熊毛北 22－4 長府
徳山 15－11 岩国
徳山商 37－2 防府商

▼2回戦
岩国商 31－3 高森
高水 22－7 西京
華陵 13－6 熊毛北
徳山商 27－6 徳山

▼準決勝
岩国商 21－6 高水
徳山商 20－8 華陵

▼決勝
岩国商 21（12－3、9－11）14 徳山商

山口県体育大会・一般の部

（11月14、15日／徳山市総合スポーツセンターほか）

〈男子〉

▼1回戦
岩国ク 12－0 日本ゼオン
美川ク 12－0 出光徳山
下関ク 23－16 周南ク
徳山ク 35－19 山陽国策パルプ
興亜石油 29－28 豆子郎ク

▼2回戦
山口県教員団 23－15 岩国ク
下関ク 21－8 美川ク
徳山曹達 25－12 徳山ク
下松ク 39－11 興亜石油

▼準決勝
山口県教員団 23－18 下関ク
徳山曹達 17－14 下松ク

▼決勝
山口県教員団 25（12－11、13－13）24 徳山曹達

〈女子〉

▼1回戦
徳山ク 17－14 BHC
山口ク 17－7 周南ク

▼3位決定戦
BHC 16－12 周南ク

▼決勝
徳山ク 25（13－4、12－8）12 山口ク

九州

第10回鹿児島県小学校大会

（11月8日／鹿児島大学教育学部附属中学校）

〈男子〉

▼予選リーグ
富隈 9－4 大崎
富隈 15－0 寿
寿 4－1 大崎
財部南 6－3 大泊
川内 11－3 大泊
川内 9－2 財部南

▼決勝
富隈 9（3－0、6－2）2 川内

〈女子〉

▼リーグ戦
川内 6－0 大崎
寿 9－1 大崎
寿 5－4 川内

第4回鹿児島県中一大会

（11月8日／鹿児島大学教育学部附属中学校）

〈男子〉

▼予選リーグ
重富 11－7 東谷山
谷山 11－4 東谷山
谷山 9－7 重富
伊敷 12－6 鹿大附属
国分 6－5 伊敷
国分 11－4 鹿大附属

▼決勝
谷山 7（4－1、3－4）5 国分

〈女子〉

▼リーグ戦
国分 5－4 重富
国分 12－0 谷山
重富 11－1 谷山

第42回鹿児島県高校新人大会

（11月14～16日／隼人町営体育館ほか）

〈男子〉

▼予選リーグ
鹿児島工 31－9 鹿児島高専
鹿児島南 15－9 出水工
鹿児島工 31－1 鹿児島南
出水工 13－13 鹿児島高専
松陽 18－14 笠沙
大島 18－8 松陽
大島 27－6 笠沙
加治木 21－6 頴娃
国分 16－8 頴娃
加治木 19－7 国分
鹿児島中央 22－11 加治木工
加治木工 21－8 薩南工
鹿児島中央 41－6 薩南工
指宿 12－12 加世田
鶴丸 16－14 加世田
鶴丸 11－9 指宿
甲南 19－14 鹿児島商
出水 18－13 甲陵
甲陵 14－11 甲南
出水 22－11 鹿児島商

▼決勝トーナメント1回戦
鹿児島工 24－12 甲南
大島 26－21 加治木
鶴丸 19－18 鹿児島中央
出水 28－9 鹿児島南

▼準決勝
鹿児島工 27－10 大島
鶴丸 20－13 出水

▼決勝
鹿児島工 16（7－6、9－5）11 鶴丸

〈女子〉

▼予選リーグ
鹿児島南 23－3 指宿
指宿 7－7 出水
鹿児島南 24－2 出水
鹿児島純心 15－9 奄美
奄美 22－7 牧園
鹿児島純心 13－5 牧園
大島 27－3 神村
神村 16－11 鹿児島中央
大島 23－5 鹿児島中央
国分実 36－0 志布志
志布志実 12－2 志布志
国分実 34－3 志布志実

▼決勝トーナメント準決勝
鹿児島実 11－7 鹿児島純心
大島 15－12 国分実

▼決勝
鹿児島南 20－9 大島

日本協会だより

■２月度常務理事会
出席　渡辺副会長・中沢専務理事・松本監事他８名
１．平成5.6年度役員人事について
２月１日正副会長会議開催、11月28日の臨時評議会の決定を了承。渡辺副会長、中沢専務理事で原案を作成し２月27日の評議会に提案する．
２．平成５年度事業計画案承認
３．平成５年度事業予算案承認
４．委員報告会
(1)強化委員会　井委員長のＡＨＦ．ＣＯＣ（競技、組織委員会）出席報告
(ア)96年アトランタオリンピック出場総数決定
男子12名　女子８名
(イ)93年世界選手権開催地及び会期　男子　バーレン9.3-9.15決定　女子　中国8.20-8.30 交渉中
(ウ)95年世界選手権出場枠　アジア２（中東１、極東１）極東の予選時期等は極東地区で検討
(エ)極東クラブ選手権　次回のＣＯＣで検討
(2)財務委員会日本リーグチーム賛助金の徴収方法及び登録金全般の取り扱いについて次回理事会に提案
(3)審判委員会
(ア)平成５年度ルール改正はＩＨＦより全文は未着のため取敢えず改正部分についてのみ規定を作り４月１日より実施
(イ)レフェリー・シンポジウムを2.20～21に開催。50名以上の参加を予定
５．「ミズノ・スポーツメントール賞」の推薦
優秀選手を数多く養成した指導者として古賀昇氏を推薦
６．検定業者会議
２月４日、日本体協に於て開催、21社中18社出席。今後、課題解決のため、製品別分科会を設置。検討を進める。

■平成４年度第３回全国理事会
２月13日　於：日体協会議室
出席　中沢専務理事・大野監事他17名
１．平成５年度事業計画案承認
２．平成５年度事業予算案承認
３．今後の財務問題について
検定料、役員賛助会費は平成５年度から改正改定。登録料、日本リーグ加盟金は平成６年度改定を目途に検討を進める。
４．登録規定の制定
平成６年度施行を目標に別途委員会を設け検討
５．中体連の日本ハンドボール協会への加盟承認
６．第48回国民体育大会準備状況報告

■平成４年度第２回評議員会
２月27日　於：日体協会議室
出席　渡辺副会長・中沢専務理事・松本・大野監事他25名・委任状18名。他に日本協会常務理事９名
１．平成５年度事業計画承認
２．平成５年度事業日程承認
３．平成５年度事業予算承認
４．今後の財務問題について
逼迫した財務状態に対応するための増収対策・平成５年度より実施…役員賛助会費値上げ、検定料改定・平成６年度実施に向けて検討…登録金、リーグ加盟金等
５．中体連の加盟承認
６．平成5.6年度役員選任（９ブロック、５連盟選出役員は後日決定）

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三二九号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成五年三月二十六日印刷　平成五年四月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話　代表　三四八一ー二三六一
振替　東京　六ー五八三四八番
編集兼発行人　中澤重夫
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）